

伏見地区

まちづくりビジョン

LIFE

～住む人 働く人 訪れる人に愛される“伏見”～

- Live** 人が住み
- Innovation** 革新的な技術・ビジネスが広がる
- Fun** 歩いて楽しい個性にあふれた
- Entertainment** 芸術・文化が香るおもてなしのまち



平成 29 年 3 月
名古屋商工会議所

概要 伏見地区まちづくりビジョン

LIFE ~ 住む人 働く人 訪れる人に愛される“伏見” ~

Live 人が住み **I**nnovation 革新的な技術・ビジネスが広がる **F**un 歩いて楽しい個性にあふれた **E**ntertainment 芸術・文化が香るおもてなしのまち

- 歴史・現状**
- (1) 江戸時代からの歴史が残り、金融機関をはじめ、多くの企業が集積する（ビジネス街）。
 - (2) 飲食店や宿泊施設が多く立地し、広小路通を中心ににぎわいがある。
 - (3) 白川公園や堀川があり、都心にあって自然が豊かと言える。
 - (4) 御園座、名古屋市科学館・美術館をはじめ、芸術・文化施設が多く立地する文化的な地区である。
 - (5) 住居施設が多く、今後の再開発動向を見据えると、都心居住が進むと予想される。

- 課題**
- (1) ライフスタイルの多様化、人口減少・高齢化社会の進展、リニア開業、東京一極集中の加速等への対応。
 - (2) 地区の魅力・個性を活かしたまちづくり（魅力・個性を活かし、伸ばす）。
 - (3) 住みよいまちの整備（都心居住を促す環境づくり）。
 - (4) 都心回遊を促進する役割（交通利便性の向上）。
 - (5) 災害に強いまちづくり（巨大地震や集中豪雨対策）。

重要：重要項目

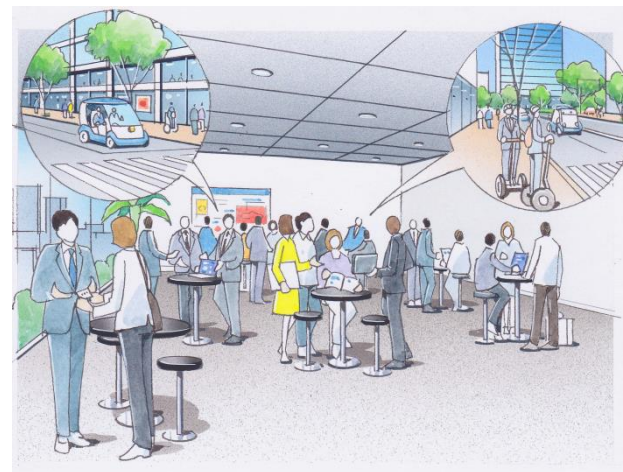
方針1 ビジネスが育つまち —高いビジネスマインドがあふれる— **I**nnovation

1-1 ビジネス環境の向上

- ①ビジネス拠点としての環境整備 短期 **重要**
- ②空きビル・テナント対策の促進 短期
- ③国内外の企業誘致 中期

1-2 先進的なビジネスモデルのまちなか展開

- ④最先端技術のまちなか展開促進 中期
- ⑤先進的なビジネスモデルの支援体制強化 中期



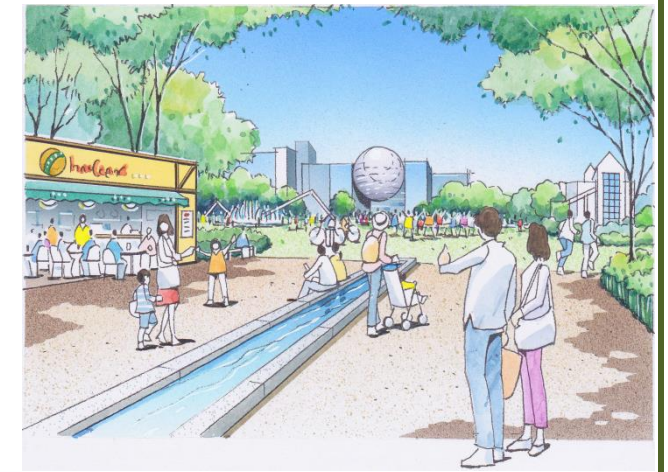
方針2 五感で味わうまち —歩いて楽しみたい魅力と個性— **F**un

2-1 地区・通り毎の魅力づくり

- ⑥歩行者空間の活用 短期 **重要**
- ⑦民間（企業）主導による白川公園の活用 中期 **重要**
- ⑧芸術・文化施設を核とした回遊空間づくり 中期 **重要**
- ⑨歴史軸としての本町通の活用 中期

2-2 地元によるにぎわいづくり

- ⑩まちづくり協議会・団体の交流促進と活動強化 短期 **重要**
- ⑪堀川の水辺空間の活用 中期
- ⑫伏見駅における駅ナカビジネスの推進 中期



方針3 住みたくなるまち —憧れを抱く居住環境— **L**ive

3-1 都心居住環境の向上

- ⑬地域特性に応じたルールづくり 短期 **重要**
- ⑭複合型インターナショナルスクールの設置 中期 **重要**
- ⑮御園小学校跡地の高度利用 長期
- ⑯多様な住宅物件の開発促進 長期

3-2 防災機能の強化

- ⑰官民連携による防災対策と情報共有システムの構築 短期
- ⑱集中豪雨などを想定した雨水対策の推進 中期



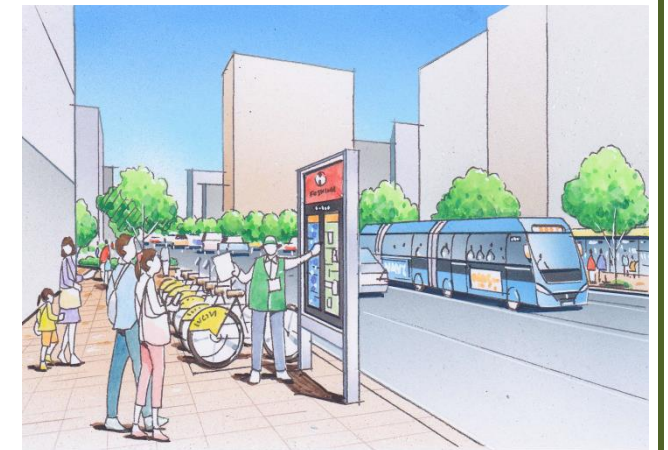
方針4 ひとを繋げ結ぶまち —おもてなし機能とかなめ機能— **E**ntertainment

4-1 おもてなしの充実

- ⑲伏見駅のバリアフリー施設の整備 中期 **重要**
- ⑳広小路伏見交差点の改良 短期
- ㉑観光案内機能の強化 短期

4-2 都心の回遊性向上のための整備

- ㉒新たな路面公共交通システムの導入 中期 **重要**
- ㉓コミュニティサイクルの導入 中期
- ㉔堀川の舟運の定期運航化 中期



目次

はじめに	2
第1章 伏見地区の歴史・現状	4
1-1 伏見地区の歴史	4
1-2 伏見地区の特徴	7
(1) 人口動向	7
(2) 土地利用・建物用途	9
(3) 公共交通・道路基盤	11
(4) 公園・緑、水辺	11
(5) まちのにぎわいとエリア別特色	12
(6) 主な再開発動向	17
1-3 伏見地区のまとめ	20
第2章 伏見地区のまちづくりの課題と方向性	24
2-1 まちづくりの課題	24
2-2 まちづくりの方向性	26
第3章 提言	28
方針1 ビジネスが育つまち —高いビジネスマインドがあふれる— ...	29
方針2 五感で味わうまち —歩いて楽しみたい魅力と個性—	30
方針3 住みたくなるまち —憧れを抱く居住環境—	31
方針4 ひとを繋げ結ぶまち —おもてなし機能とかなめ機能—	32
参考資料	34
地元の意見、伏見地区における関連計画、活動報告、委員名簿	

はじめに

ライフスタイルが多様化し、家族や世帯のあり方や人と人との繋がりが変化している昨今、国家や地域の境界を越えて、地球規模で人、物、資金や情報の移動が拡大し、相互依存が深まるグローバル化が進んでおり、都市間競争はますます激化している。また、人口減少・高齢化社会が進展している我が国において、未来を切り開く重要な鍵として政府が注目しているのが、「第4次産業革命」と呼ばれるIoTや人工知能（AI）、ロボット等の革新的技術の活用であり、今後、まちづくりにおいても重要な視点になると思われる。

名古屋市においては、65歳以上の高齢者人口が、2010年に約48万人であったものが、2040年には約71万人になると推計されており、大幅な増加が見込まれている。また、駿河湾以西の太平洋岸の沖合にある南海トラフを震源とする大規模な地震の発生も懸念されていることから、過去の自然災害の教訓を活かし、災害に強いまちづくりを進めることは必須である。

このようななか、2027年に開業予定であるリニア中央新幹線は、東京～名古屋間を約40分で結ぶことができ、首都圏との移動時間を大幅に短縮する。リニア中央新幹線の建設は、当地のみならず、わが国の国際競争力強化の重要な原動力であり、「世界交流都市・名古屋」へと飛躍するための千載一遇の機会をもたらすものと言える。

そこで名古屋市では、この好機を最大限に活かすため、2027年の開業を見据えたまちづくりビジョンを、中心核である「名古屋駅地区」と「栄地区」において取り纏め、名古屋大都市圏の中核都市にふさわしい、高い国際競争力を発揮する都心の形成に向けて鋭意取り組んでいる。

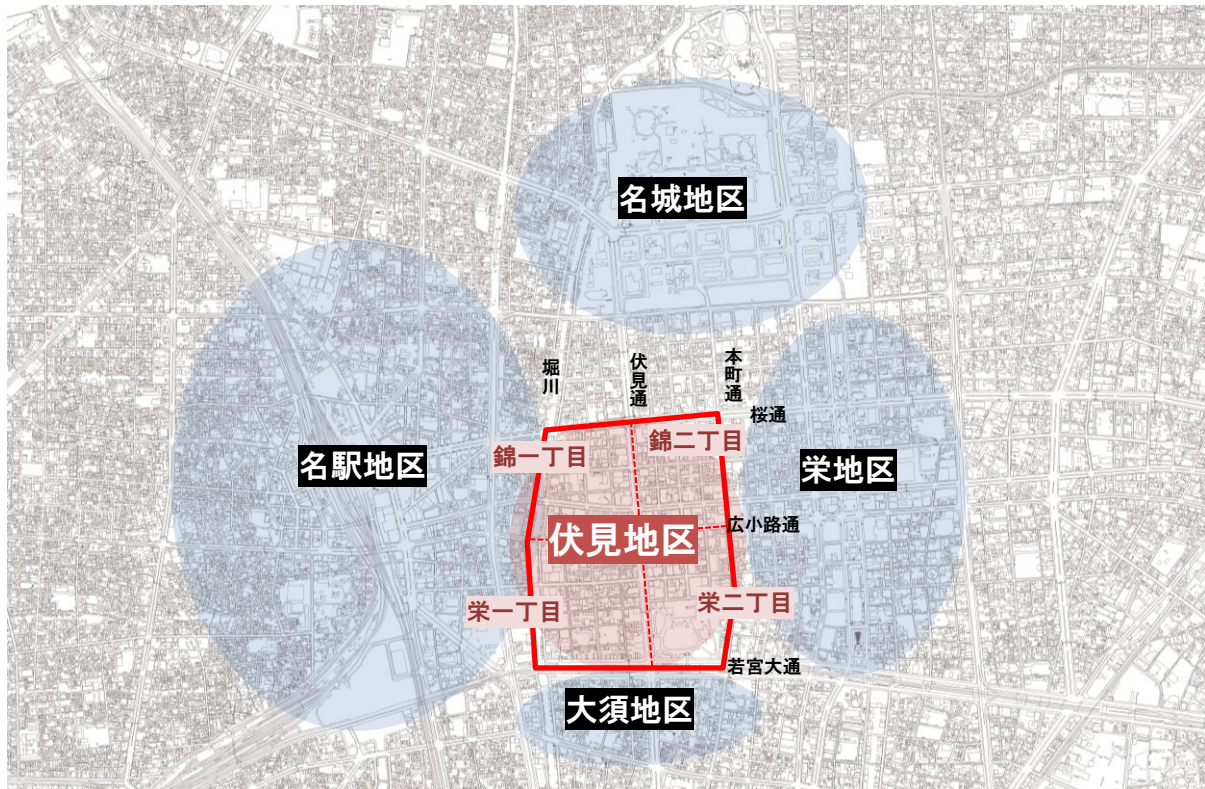
とりわけ、「名古屋駅地区」においては、当地の玄関口となる名古屋駅のターミナル機能の強化や象徴的な都市空間の形成を図り、国際的・広域的な拠点づくりを、「栄地区」においては、商業・文化・娯楽の集積を活かした交流拠点として、世界に誇れるシンボル空間の形成を目指した公共空間の再生、民間再開発の促進、界隈性の充実によるまちづくりを進めている。

しかしながら、地区の一部が特定都市再生緊急整備地域にも該当し、「名古屋駅地区」と「栄地区」、「名城地区」と「大須地区」を結ぶ「結節点」としての役割が求められる「伏見地区」においては、各エリアでの地域活性化に向けた取り組みはあるものの、地区全体を包括するようなまちづくりビジョンが未だ取り纏められていない。

また、高い国際競争力を確保するためには、「伏見地区」と上記4地区が、それぞれ都心の核となりうる個性を持ち、名古屋市全体の魅力向上に寄与することが必要である。

そこで、名古屋商工会議所では、名古屋駅～栄におけるにぎわいの連続性の確保と、「名城地区」や「大須地区」を含めた都心のビジネス・交流活動を活発化するための重要な地区である「伏見地区」が、回遊性向上に資する機能を十分に発揮し、独自の強みを持つ魅力あるまちとなるための提言「伏見地区まちづくりビジョン」を取り纏めた。

今後、本提言の趣旨に沿って、行政機関や関係団体・企業、地域や市民など、まちづくりに係わる関係者の一丸となった活動が展開され、他地区のまちづくり活性化の“火付け役”となり、名古屋、ひいては我が国の発展に繋がることを期待する。



注) 本ビジョンにおいて「伏見地区」とは、錦一丁目及び二丁目、栄一丁目及び二丁目の4丁目を中心とした界隈を指します。また、地区と学区は区別して表記しています。

※「名城地区」は、名古屋城を中心とした界隈です。「名古屋駅地区」は、ささしまも含み、「名駅地区」と略して表記する場合があります。

第1章 伏見地区の歴史・現状

本章では、伏見地区について、「歴史」「人口動向」「土地利用・建物用途」「公共交通・道路基盤」「公園・緑、水辺」「まちのにぎわいとエリア別特色」「主な再開発動向」の項目毎に整理を行った。

1-1 伏見地区の歴史

■ 近世（江戸時代）

- ・1610年、徳川家康は地盤が固く高台にある名古屋台地（熱田台地）の北端に、日本最大級近世城郭「名古屋城」を築城し、尾張の中心であった清洲城下町を名古屋へ移した（清洲越）。
- ・城の南には近代都市名古屋の原型となる、碁盤割の町割が形成され、町民の職業などを示す町名が多く付けられた。
- ・「名古屋城」の築城と同時に、城郭の西から熱田の湊まで、福島正則によって堀川の開削が行われた。
- ・堀川は、城下町への生活物資の運搬水路として重要な役割を担った。
- ・南北の本町通は、城下町の町割の中心軸であるとともに、城下町と宮の宿（東海道）とを結ぶ道として重要な役割を担っていた。
- ・城下町が建設されて半世紀が経過した1660年1月、万治の大火が発生し、2,400軒もの町家や武家屋敷が焼失した。そこで、その再建にあたり、碁盤割の南端にあった「堀切筋」を拡幅（3間（5.4m）から15間（27m）へ）し、火除け地の役割を持たせた（現在の広小路通）。

■ 近代（明治・大正時代）

- ・国鉄（現在のJR）東海道線が建設され、1886年、現在の笹島交差点付近に名古屋停車場が開業した。名古屋の東西の目抜き通りである広小路通が都心から名古屋停車場まで延伸した。
- ・1898年には広小路通に国内で2番目の路面電車（笹島（名古屋停車場前）～県庁前（久屋町））が開通し都心部の発達を促した。

図1 名古屋台地の図



出典：名古屋市歴史まちづくり戦略

図2 昭和初期の広小路



出典：Network2010.org

■ 現代（昭和～現在）

- 1945年に終戦を迎えたが、戦災によりまちのシンボルであった「名古屋城」天守閣をはじめ、城下・熱田など当時の市域の4分の1（約3,850ha）が焼失した。
- 戦災地のみならず関連地域を含めた大胆かつ先進的な都市計画として、直ちに戦災復興都市計画を策定した。
- 戦災復興都市計画に基づき、100m道路（久屋大通、若宮大通）をはじめ、幅員50mの主要幹線道路などが格子状に配置され、道路網の整備が進められた。
- 碁盤割の地割を活かした商業地区としての機能を高め、高度利用が図られるようにするため、地割周囲の道路を広幅員とする形で区画整理事業が計画され、事業が進められた。
- 新たに名城公園、白川公園、久屋大通公園、若宮大通公園等の大規模緑地公園、1学区1公園を目標とした小学校と隣接する都市公園が計画され整備が進められた。
- 1957年、名古屋～栄町間2.4kmにおいて、名古屋で最初の地下鉄が開業した。同時に名古屋駅前、伏見町、栄町に地下街が建設された。

図3 昭和40年ごろの白川公園と若宮大通



出典：Network2010.org

コラム

尾張名古屋の歴史を色濃く残す伏見地区

伏見地区は名古屋城下町において町人町（※1）を形成しており、旧町名の鉄砲町や八百屋町、木挽町通などはその名残である。

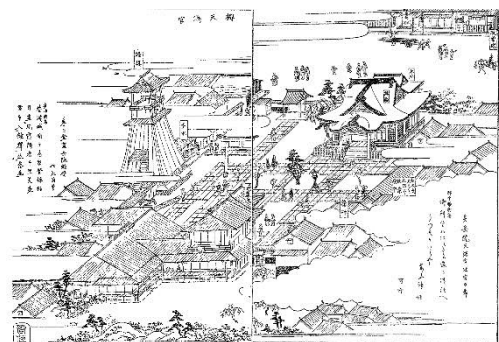
また、熱田（宮の渡し）と「名古屋城」を結ぶ“物流のかなめ”として開削された堀川や、江戸時代にメインストリートであった本町通、名古屋第一の交通の要地であった伝馬町通（※2）などは、ひと・ものの往来が盛んで、当時の雰囲気を今に伝える『尾張名所図会』にも描かれている「桜天神社」や「泥江縣神社」、「高札場跡」（※3）が現在にも残っている。

近代名古屋に向かうにつれ、運搬の主流が舟運から陸路による輸送に移ると、広小路通や錦通、伏見通が主要な通りとなっていくが、伏見地区では、当時の情景を現代でも感じることができる。

※1 「町人」は、江戸時代に都市に居住していた職人、商人の総称。

※2 「伝馬」は、公用の人や荷物を運ぶために乗り継ぐ馬を指す。

※3 「高札」は、立て札とも言い、交通の多い場所に掲げられた板札（法度や犯罪人の罪状等を記した）。



『尾張名所図会』に描かれた桜天神社

■伏見地区など都心部におけるまちづくりの変遷

表1 伏見地区など都心部におけるまちづくりの変遷

時期		事項・場所	名駅	伏見	栄
1610年	慶長15年	清洲越（名古屋城築城）		○	○
		堀川開削		○	
		本町通がメインストリート	名古屋城～熱田		○
1660年	万治3年	万治の大火		○	○
		広小路誕生（3間から15間に拡幅）	長者町～久屋町		○
1881年	明治14年	名古屋商法会議所（現名古屋商工会議所）の設立		○	
		広小路拡幅完了	栄～堀川		○
1886年	明治19年	名古屋停車場開業	笹島	○	
		広小路通延伸	笹島～堀川	○	
1889年	明治22年	市制施行		○	○
1896年	明治29年	御園座開館		○	
1898年	明治31年	路面電車開業	笹島～県庁前	○	○
1930年	昭和5年	市営バス営業開始	浄心～覚王山	○	
			浄心～公園		
			名古屋駅前～大曾根		
			名古屋駅前～内田橋		
1936年	昭和11年	名古屋観光ホテル開業（客室数70室）		○	
1937年	昭和12年	国鉄新名古屋駅（JR名古屋駅）開業	笹島から現在地へ	○	
1945年	昭和20年	終戦	市域1/4焼失（約3,850ha）	○	○
1946年	昭和21年	戦災復興都市計画の策定	100m道路・幹線道路	○	○
1949年	昭和24年	日本銀行名古屋支店が現在地に移転		○	
1957年	昭和32年	地下鉄開業（東山線）	名古屋～栄町	○	○
		名古屋地下街・伏見地下街・栄地下街開業		○	○
1962年	昭和37年	名古屋市科学館開館		○	
1964年	昭和39年	東海道新幹線開通	東京～大阪	○	
1967年	昭和42年	白川公園開園		○	
		名古屋商工会議所の現所屋完成			
1971年	昭和46年	路面電車廃止	笹島～栄	○	○
1973年	昭和48年	市内の屋台全廃		○	○
1977年	昭和52年	地下鉄鶴舞線開業	伏見～八事		○
1989年	平成元年	地下鉄桜通線開業	中村区役所～今池	○	○
1993年	平成5年	広小路（笹島～葵）都市景観整備事業完成	走行車線減(3→2) 停車帯・右折帯設置 歩道拡幅	○	○
1996年	平成8年	ナディアパーク竣工			○
1998年	平成10年	都心ループバス運行開始		○	○
1999年	平成11年	新名古屋ミュージカル劇場開館		○	
		JRセントラルタワーズ竣工		○	
2002年	平成14年	オアシス21竣工			○
2006年	平成18年	アクアタウン納屋橋竣工		○	○
2011年	平成23年	名古屋市科学館新館竣工		○	
2013年	平成25年	栄地区グランドビジョン策定			○
2014年	平成26年	名古屋駅周辺まちづくり構想策定		○	
2015年	平成27年	錦二丁目が名古屋市の低炭素モデル地区事業に選定		○	

1-2 伏見地区の特徴

(1) 人口動向

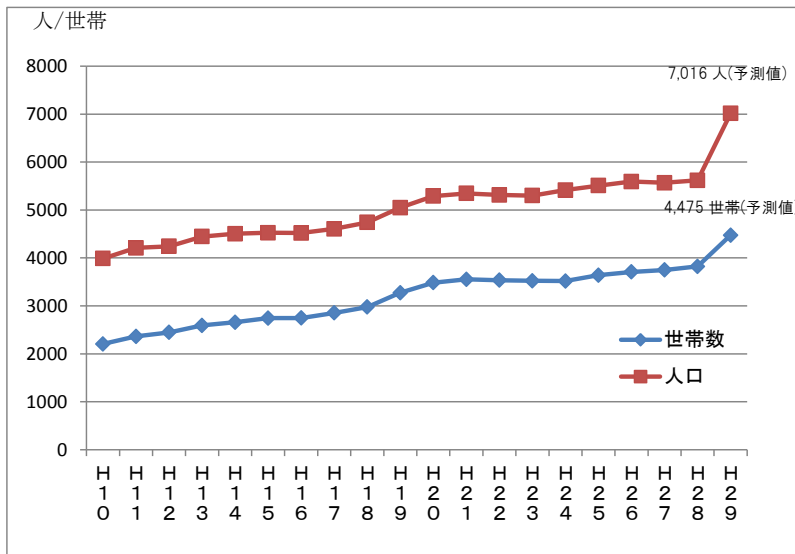
○人口・世帯数の推移

- ・伏見地区（錦一丁目、錦二丁目、栄一丁目、栄二丁目）は、全体的には夜間人口が増加傾向にあり、都心居住が進んでいることを伺わせる。【図4、表3】
- ・納屋橋東地区と栄一丁目6番地区（御園座）の事業が完了する平成29年には、栄一丁目の世帯数が651世帯増加すると思われることから、伏見地区における世帯数は、3,824世帯（平成28年実績）から4,475世帯（平成29年予想）へと増加する見込み。【図4、表2】
- ・夜間人口5,620人に対し、昼間人口推計57,000人であり、オフィス街としての特徴が伺える（昼夜間人口比率は101.5）。【表3】

○年齢構成比の現状

- ・伏見地区における生産年齢人口（15～64歳）の割合は、市全域（約63%）に比べて高い（錦一丁目約79%、錦二丁目約68%、栄一丁目約75%、栄二丁目約79%）。【図5】
- ・錦二丁目は、高齢者人口の割合が、市全域（約24%）に比べやや高く、地区内では最も高い（約27%）。【図5】

図4 伏見地区における夜間人口・世帯数の推移



出典：名古屋市人口調査（H28.10）より

表2 伏見地区の世帯数

年度	世帯数
H28年（実績）	3,824
H29年（予想）※	4,475

※平成29年に完了予定の事業において計画されている下表の住宅戸数を平成28年実績に加算

事業名	計画住戸数
納屋橋東地区市街地再開発事業	347
栄一丁目6番地区優良建築物等整備事業	304
計	651

※平成29年数値は予測であり、人口は表2の計画住戸数（651戸）と名古屋市における平均家族人数（2.15人）の積を前年の数値に加算。

表3 伏見地区における町丁目別の人口と人口密度（平成28年）

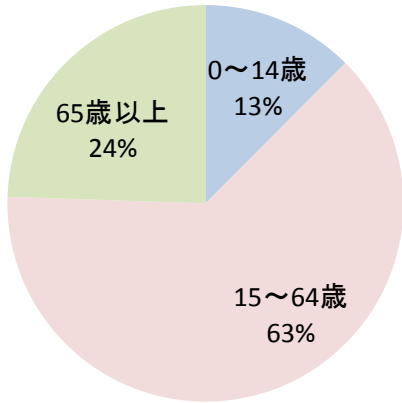
町丁目名	夜間人口(人)	昼間人口(人)※	面積(ha)	人口密度(人/ha)
栄一丁目	3,518	10,600	約31.32	112.3
栄二丁目	964	12,600	約31.63	30.5
錦一丁目	758	17,800	約18.92	40.1
錦二丁目	380	16,000	約17.22	22.1
伏見地区計	5,620	57,000	約99.09	56.7
名古屋市計	2,276,121	約2,581,000	約32,644	69.7

※昼間人口は、第5回中京都市圏パーソントリップ調査資料（H25.6）に基づく推計値（H23年）

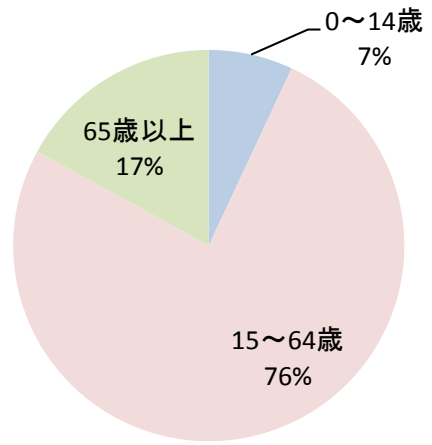
出典：名古屋市人口調査（H28.10）より

図5 伏見地区の夜間人口における町丁目別の年齢構成比

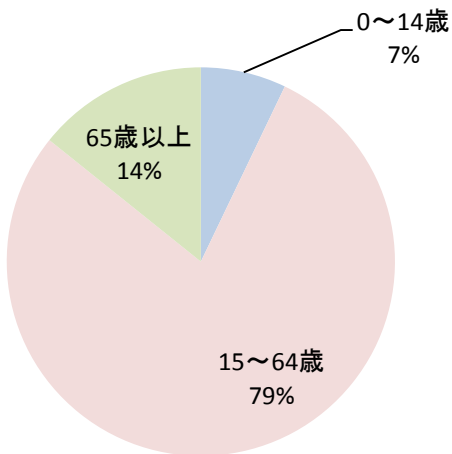
(名古屋市全域)



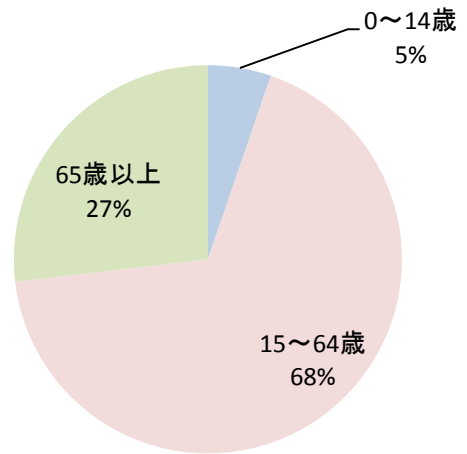
(伏見地区)



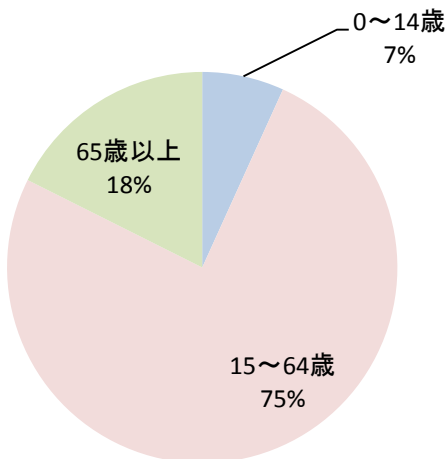
(錦一丁目)



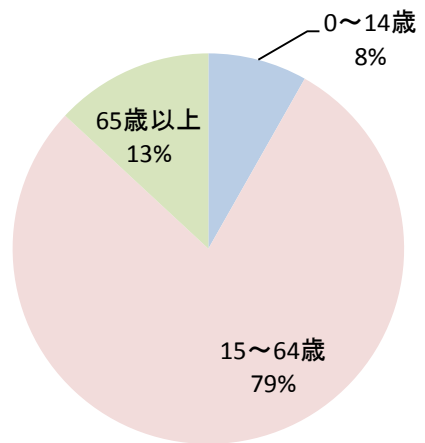
(錦二丁目)



(栄一丁目)



(栄二丁目)



出典：名古屋市人口調査（H28.10）より

(2) 土地利用・建物用途

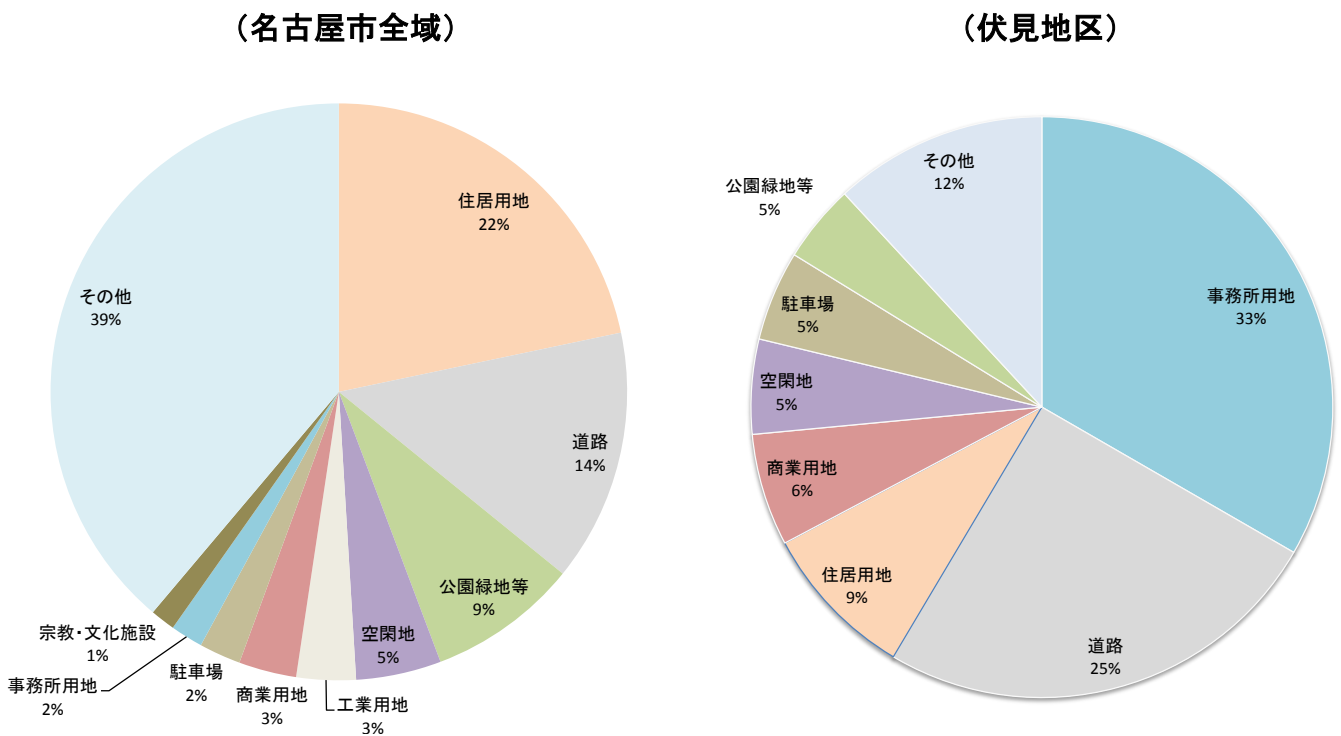
○土地利用構成比

- ・伏見地区は、市全域の土地利用構成比と比べると事務所用地が高く約 33%を占めている。また、道路の割合が高く、約 25%を占める。【図6】
- ・エリア別に見ると、錦一丁目・二丁目では、事務所用地の割合が高くいずれも 40%以上を占めている。また、栄一丁目では、他エリアに比べて住居用地が多く、約 17%を占めている他、白川公園がある栄二丁目では、公園緑地等の割合が最も高く、約 34%を占めていることが特徴である。【図7】

○各町丁目の建物用途構成

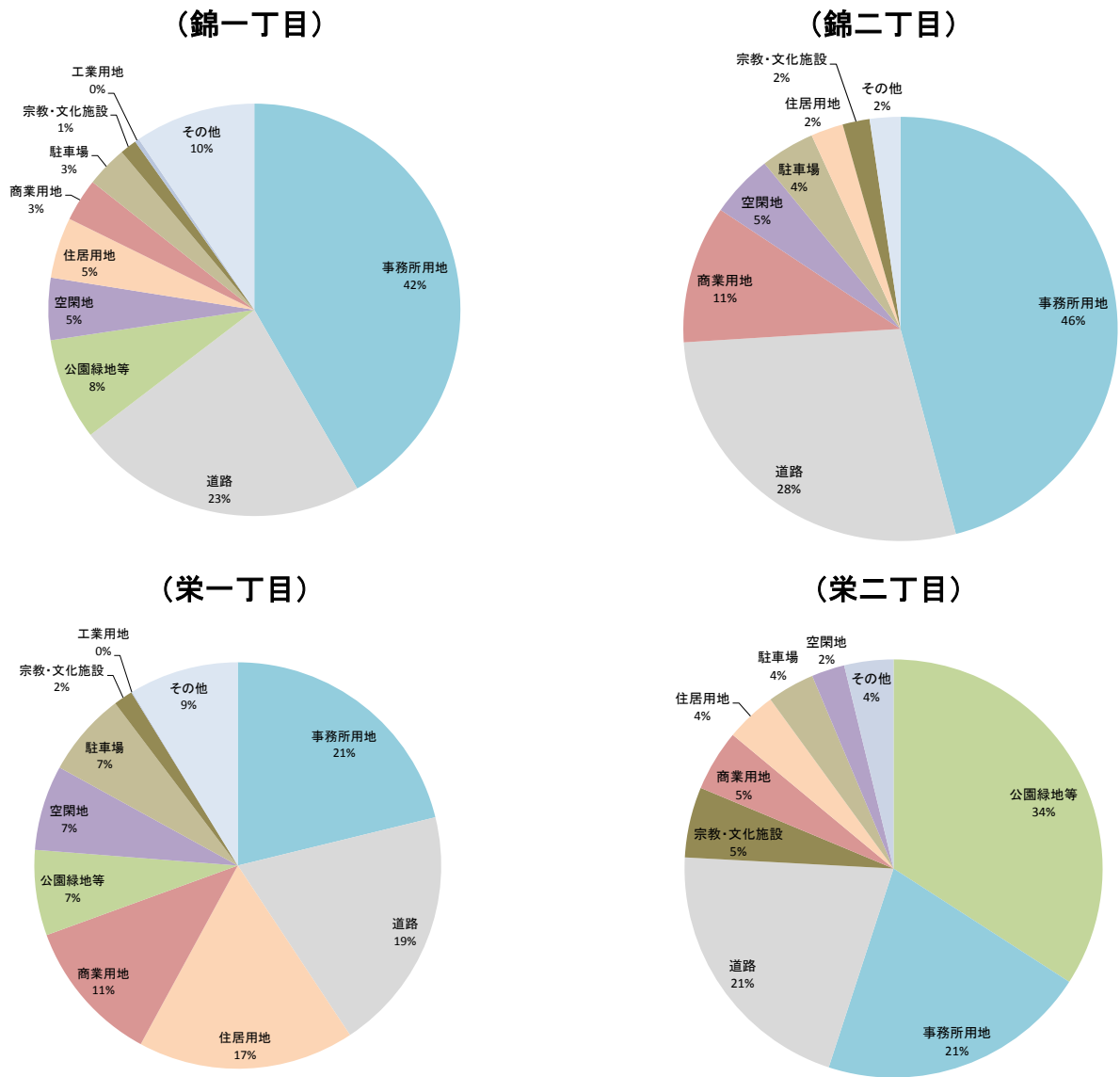
- ・伏見地区は、相対的に金融・業務機能の建物が多く、町丁目別に見ても、錦一丁目、二丁目、栄二丁目でこの割合が高い。一方、栄一丁目は、宿泊施設の他、住居施設の割合が、他のエリアに比べて高い。【図8】
- ・栄一丁目は、他エリアに比べて劇場等の娯楽施設の割合が高い。【図8】
- ・栄二丁目は、他エリアに比べて文化施設の割合が高い。【図8】

図6 伏見地区と名古屋市全域における土地利用構成比の比較（土地面積の割合）



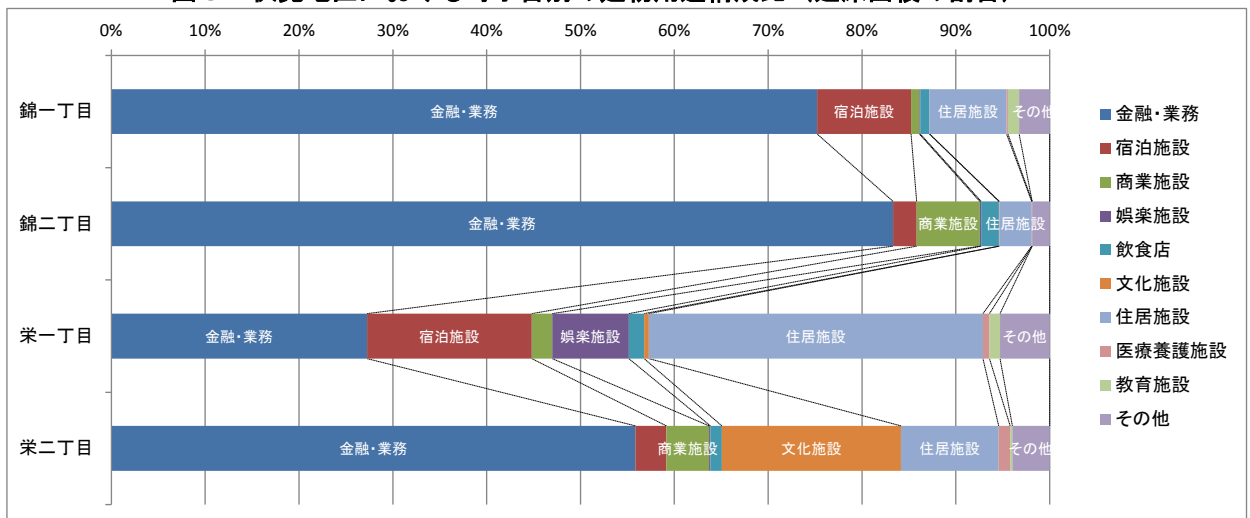
出典：名古屋市土地利用計量調査（H24）より作成

図7 伏見地区における町丁目別の土地利用構成比（土地面積の割合）



出典：名古屋市土地利用計量調査（H24）より作成

図8 伏見地区における町丁目別の建物用途構成比（延床面積の割合）



出典：名古屋市建物用途別現況調査（H23）より作成

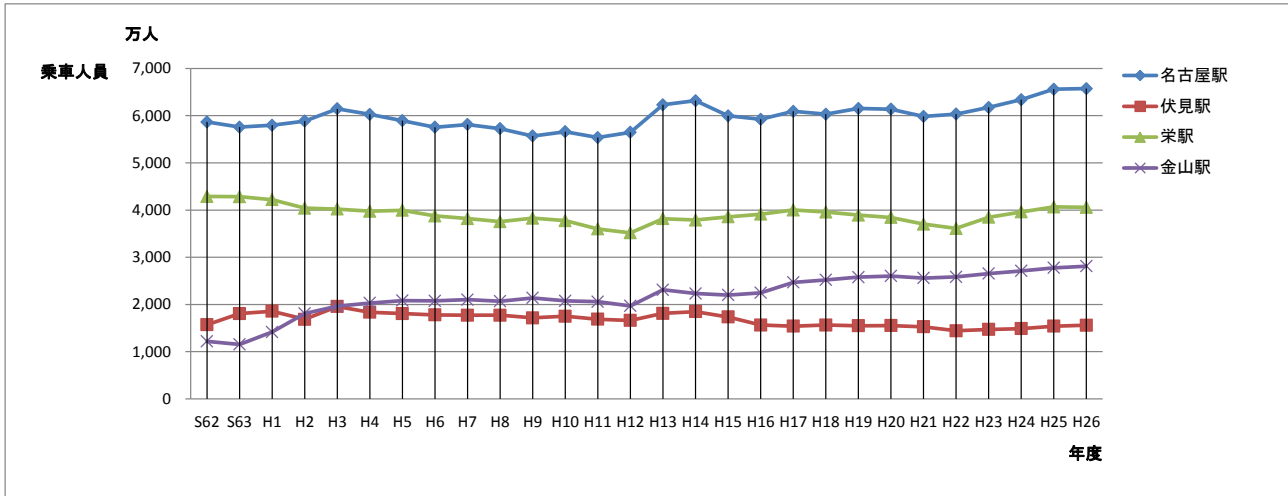
(3) 公共交通・道路基盤

- 伏見地区の主な玄関口となるのは、地下鉄東山線と鶴舞線の乗り換え駅となっている伏見駅である。
- 地下鉄伏見駅の乗車人員は、年間約1,550万人（一日平均約43,000人）となっており、市内地下鉄駅では、名古屋駅、栄駅、金山駅に次いで多い。【図9】
- 地区内には地下鉄や名古屋高速道路の出入口がある他、バス停が点在しており、利便性に優れた地区であると言える。



地下鉄伏見駅

図9 伏見駅の年間乗車人員（名古屋市営地下鉄）の推移



出典：名古屋市ホームページ (<http://www.city.nagoya.jp/somu/page/0000068179.html>) 内、「市営地下鉄各駅乗車人員の推移」より作成
 ※名古屋駅は「地下鉄桜通線・東山線」、伏見駅は「同東山線・鶴舞線」、栄駅は「同東山線・名城線」、金山駅は「同名城線・名港線」の利用者数。

(4) 公園・緑、水辺

- 伏見地区は、白川公園や下園公園など緑豊かな公園が立地するとともに、堀川にも隣接し、都心部において緑と水辺空間が身近に感じられる環境にある。



堀川の水辺



白川公園の緑

(5) まちのにぎわいとエリア別特色

- 伏見地区は、広小路通を中心に商店が立地し、人の往来も多く、にぎわいを感じることができ。また、ビジネス街であることから、飲食店も多く、特に、御園通には、御園座をはじめとした劇場・ホールがあるため、老舗・個人経営の飲食店等が多い。その他、三蔵通や錦通、本町通、長島町通にも個性ある飲食店が立地している。



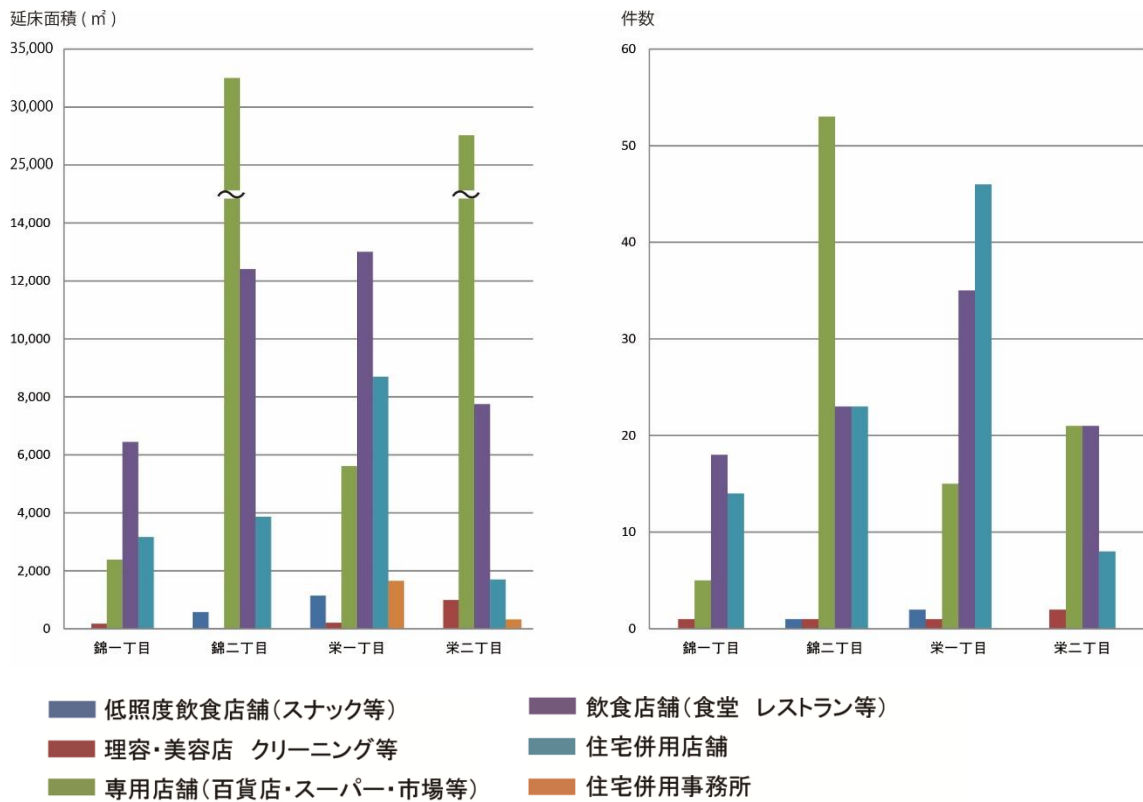
御園通沿いの商店・飲食店



長島町通沿いの飲食店

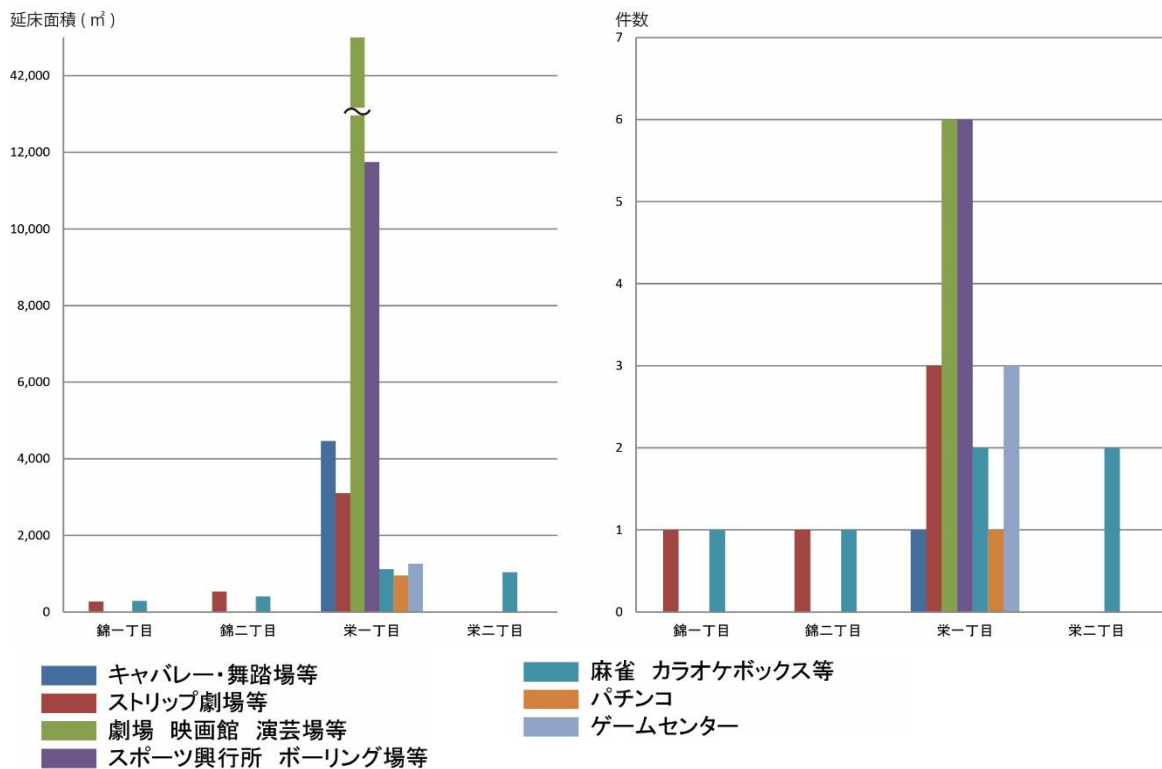
- 伏見地区における町丁目毎の商業種別の立地状況を比較すると、錦一丁目では、飲食店舗や専用店舗（小売店）が多く立地しているが、他エリアに比べて商業施設全般の立地が少ない。【図 10】
- 錦二丁目では、専用店舗（小売店）が一番多く、他エリアとの比較においても多い。次いで飲食店舗が多くなっている。【図 10】
- 栄一丁目では、飲食店舗が最も多く、他エリアとの比較においても最も多い。また、住宅併用事務所、スナック等の低照度飲食店舗も他エリアに比べて立地が多い。【図 10】
- 栄二丁目は、専用店舗（小売店）の立地が最も多く、他エリアと比べても錦二丁目に次いで多い。また、他エリアにはあまり立地していない理容・美容店、クリーニング店等が立地している。【図 10】
- 上記から、小売店の立地は錦二丁目、栄二丁目が多く、飲食店は錦二丁目、栄一丁目が比較的多いと言える。また、栄一丁目・二丁目には、スナック等の低照度飲食店舗、理容・美容店、クリーニング店など、錦一丁目・二丁目には見られない特異な種別の立地が伺える。
- 伏見地区における町丁目毎の娯楽種別の立地状況を比較すると、娯楽施設は、栄一丁目集中していることが分かる。これは、御園座をはじめ、映画館やパチンコなどが御園通沿いに立地しているためと考えられる。麻雀、カラオケボックス等は、地区内全般に分布していることが分かる。【図 11】

図 10 伏見地区における町丁目毎の商業種別の立地状況



出典：名古屋市建物用途別現況調査（H23）より作成

図 11 伏見地区における町丁目毎の娯楽種別の立地状況



出典：名古屋市建物用途別現況調査（H23）より作成

- ・伏見地区は、かつて交通の要所であった堀川や本町通などを中心に、地域資源（※）や芸術・文化施設が広く分布している。とりわけ、錦一丁目・二丁目には、神社・仏閣が多く残っている。一方、栄一丁目・二丁目には、白川公園の名古屋市科学館・美術館や音楽ホールなどの施設が多く立地している。また、伏見地区は、イベントなどの独自の地域活動（P16 参照）も行われており、エリア毎に特色があると言える。

※地域資源とは、地域の魅力を創出する景観や地域の特徴を活かした施設、歴史的な建物を言う。

（主な地域資源）

■ 錦一丁目

【歴史・景観】



旧加藤商会ビル
名古屋市中区錦 1-15-17



桜通のイチョウ並木
名古屋市中区桜通

【寺社・仏閣】



泥江縣神社
名古屋市中区錦 1-7-29

■ 錦二丁目

【文化施設】



短歌会館
名古屋市中区錦 2-13-22

【歴史・景観】



三井住友銀行名古屋支店
名古屋市中区錦 2-18-24



旧名古屋銀行本店ビル
名古屋市中区錦 2-20-25

【寺社・仏閣】



桜天神社
名古屋市中区錦 2-4-6



福生院
名古屋市中区錦 2-5-22

【再開発ビル】



あびすビル Part1
名古屋市中区錦 2-5-29

■栄一丁目

【文化施設】

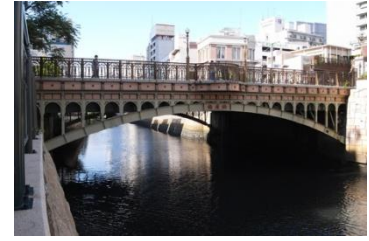


伏見ライフプラザ
名古屋市中区栄 1-23-13



中スポーツセンター
名古屋市中区栄 1-30-10

【歴史・景観】



納屋橋
名古屋市中区栄 1丁目

【寺社・仏閣】



澤田商店
名古屋市中区 1-13-31



洲崎神社
名古屋市中区栄 1-31-25



永林寺
名古屋市中区栄 1-15-15

■栄二丁目

【文化施設】



名古屋市科学館
名古屋市中区栄 2-17-1



名古屋市美術館
名古屋市中区栄 2-17-25



しらかわホール
名古屋市中区栄 2-9-15

【景観】



電気文化会館
名古屋市中区栄 2-2-5



白川公園
名古屋市中区栄 2丁目

【ビジネス拠点】



名古屋商工会議所ビル
名古屋市中区栄 2-10-19

(主な地域活動)

エリア	主な地域活動	
錦一丁目	なやばし夜イチ	毎月第4金曜日、納屋橋～錦橋間の堀川沿岸で飲食や物販を中心にしたイベントを実施。
錦二丁目	糸びす祭り	平成13年から毎年10月に長者町通で開催。織維問屋等によるフリーマーケット、地元飲食店による屋台、音楽演奏、まちづくり協議会のプロジェクトと連携したイベント等を実施。
	歩道拡幅社会実験	平成26年に長者町通で実施。車道上にウッドデッキを設置し、部分的に歩道を拡幅。実験終了後、使用した木材は地区内各所へ転用。
	低炭素モデル地区事業	平成27年2月、名古屋市環境局により認定。平成42年までに、二酸化炭素を25%以上削減することを目指し、エリア全体で再開発事業・都市の木質化等の各種プロジェクトに取り組む。
栄一丁目	広小路市	例年4月・10月の2回開催。広小路通歩道上でのワゴンセール、アムナット公開空地でのキッチンカーによる飲食の提供、沿道各地での音楽演奏等を実施。
栄二丁目	芸術と科学の杜	名古屋市科学館・美術館等のエリア内の文化施設と、町内会・商店街・専門学校等との連携による、白川公園周辺の知名度向上・イメージアップ・にぎわいの創出を目指した取り組み。マップの作成・配布、サイエンス&アートフェスティバルの開催等を実施。



なやばし夜イチ



糸びす祭り



広小路市



芸術と科学の杜

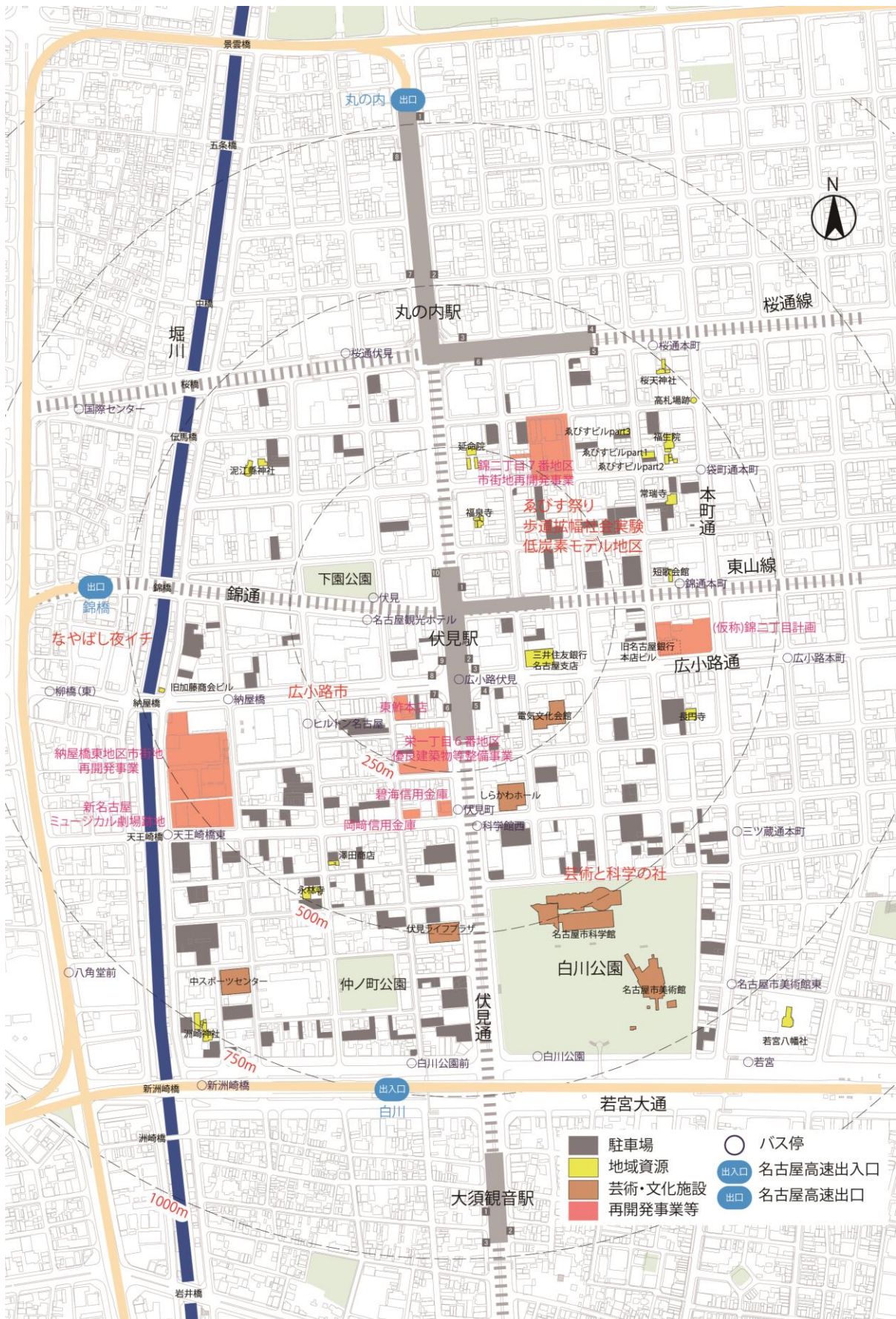
(6) 主な再開発動向

- ・伏見地区では、様々な再開発が計画されている。

エリア	主な再開発動向
錦二丁目	<ul style="list-style-type: none"> ●（仮称）錦二丁目計画【平成29年度竣工予定】 <ul style="list-style-type: none"> ・三菱地所と積水ハウスが共同で開発している超高層オフィスビル（地上21階・地下1階建）。 ・地域に親しまれてきた歴史的建築物「旧名古屋銀行本店ビル」を商業店舗として保存・活用する。 ●錦二丁目7番地区市街地再開発事業 <ul style="list-style-type: none"> ・錦二丁目のまちの再生を担うリーディングプロジェクト。 ・土地の合理的かつ健全な高度利用を図るとともに、住宅・商業・生活支援機能の導入や広場・歩行者空間の整備を行い、にぎわいと魅力ある空間の創出を目指す。 
栄一丁目	<ul style="list-style-type: none"> ●納屋橋東地区市街地再開発事業【平成29年度竣工予定】 <ul style="list-style-type: none"> ・納屋橋東地区は、名古屋市のメインストリートである広小路通と都心の貴重な水辺空間である堀川が交差する納屋橋の東南角に位置する。 ・老朽建築物や平面駐車場が存在し、土地の高度利用がなされていなかったため、民間の市街地再開発組合による市街地再開発事業の実施により、地区の特性を活かした複合施設（住宅・商業・業務）の整備を行い、堀川と調和した活気と魅力ある空間の創出を目指している。 ●栄一丁目6番地区優良建築物等整備事業（御園座）【平成29年度竣工予定】 <ul style="list-style-type: none"> ・歌舞伎の常設劇場として歴史を有する御園座と、隣接する建物の共同建替えにより、文化交流拠点の再整備を行う。 ・共同化に伴い、耐震性の向上、土地の合理的かつ健全な高度利用、高品質な住宅供給による都心居住の促進が図られる。 ・回遊性を高める歩行者空間及び広場の整備を行い、にぎわいと魅力ある空間を創出するとともに、住宅・劇場・商業等の集積による都市魅力の向上で地域の活性化を目指している。  

エリア	主な再開発動向
栄一丁目 (つづき)	<p>「新名古屋ミュージカル劇場」跡地【平成30年度竣工予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇団四季の「新名古屋ミュージカル劇場」跡地に、ビジネスホテル並びに駐車場を整備する計画。全体の3分の1にあたる約1,800㎡に計画されるビジネスホテルは14階建てで、200～300室の規模になる予定。2018年夏ごろを目途に開業を目指す。残りの約3,500㎡には、地権者によって駐車場が整備される。 
	<p>東鯨本店【平成30年度竣工予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老舗すし店の東鯨本店は、「広小路本店」を再開発する。 ・1・2階は東鯨本店などが入居する商業スペース、3階～14階はビジネスホテルの「ダイワロイネットホテルズ」が入居予定（客室数は300室規模になる見込み）。
	<p>碧海信用金庫【平成29年度開設予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・碧海信用金庫は、御園支店を開設する（鉄筋造7階建）。 ・同支店は、東京大学の隈研吾教授が主宰する隈研吾建築都市設計事務所に意匠設計・監修を依頼。 ・伝統と現代が融合した独創的な外観で、現在想定される大規模災害に備えた高度な安全性を確保するとともに、環境の保全にも配慮した建物となる予定。 
	<p>岡崎信用金庫【平成29年度開設予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡崎信用金庫は、名古屋支店（柳橋支店を新築移転）を開設する（鉄骨造地上7階・地下1階建）。 ・同支店は、歴史ある伏見の町並みにふさわしい建物を目指し、低層部には透明感のある開放的なガラスカーテンウォールと黒の花崗岩を使用して「重厚感」を、高層部には和文様を表現した外装スクリーンを設けることで「伝統性」を表現した外観とする予定。 ・また、想定される大規模災害に備えて免震構造を採用するなど、安全性にも十分に配慮している。 

図 12 伏見地区におけるまちづくり動向



※地域資源とは、地域の魅力を創出する景観や地域の特徴を活かした施設、歴史的な建物を言う。

1-3 伏見地区のまとめ

	伏見地区
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○江戸・明治・大正時代の歴史が残り、日本銀行名古屋支店などの金融機関の立地をはじめ、多くの企業が集積したビジネス街と言える。また、個性ある飲食店も集積している。 ○名古屋市科学館・美術館をはじめ、音楽ホール等の立地や、都心において水と緑が身近にあることから、落ち着いたある文化的な地区である。 ○今後の再開発動向を見据えると、都心居住が進む地区と言える。
歴史・なりたち	<ul style="list-style-type: none"> ○本町通、堀川などを中心に、近世以降の名古屋のまちを支えてきた歴史資産が点在している。
人口動向	<ul style="list-style-type: none"> ○夜間人口が増加傾向にあり、都心居住が進んでいることが伺える。 ○人口密度は、市全域より低い。 ○夜間人口 5,620 人に対し、昼間人口推計 57,000 人であり、オフィス街としての特徴が伺える（昼夜間人口比率は 101.5）。 ○再開発等により、今後も都心居住が進む見込みである。
土地利用 建物用途	<ul style="list-style-type: none"> ○道路用地の割合が高い。 ○事務所用地の割合が高く、金融・業務施設、住居施設の立地が多い。 ○文化施設の床面積が比較的大きい。 ○沿道に商店が点在している。
公共交通 道路基盤	<ul style="list-style-type: none"> ○地区中央に立地する伏見駅は、市内地下鉄駅で名古屋駅・栄駅・金山駅に次いで乗車人員が多い駅である。 ○地区内にはバス停が点在しており、名古屋高速道路の出入口が近いなど交通利便性は高い。
公園・緑 水辺	<ul style="list-style-type: none"> ○白川公園や下園公園など緑豊かな公園が立地し、また、堀川にも隣接していることから、都心において緑と水辺空間が身近に感じられる環境にある。
にぎわい 地域資源 まちづくり活動	<ul style="list-style-type: none"> ○老舗・個人経営の飲食店など、個性ある店舗が集積している。 ○名古屋市科学館・美術館をはじめ、他地区に比べて文化施設が多く立地している他、名古屋商工会議所が立地する。 ○エリアマネジメントとして、地区内でイベント等が活発に行われている。 ○地区内において、多数の再開発が進行している。
防災性	<ul style="list-style-type: none"> ○名古屋の洪積台地の上であり、地盤が固く、高い地区である。 ○白川公園が広域避難場所に指定されている。
関連計画等	<ul style="list-style-type: none"> ○「都市再生緊急整備地域」、「特定都市再生緊急整備地域」に指定されている。 ○名駅と栄を繋ぐ広小路通を歩いて楽しい軸として形成する（「名古屋市都心部将来構想」）。 ○広小路通が「賑わい交流軸」に位置付けられている（「なごや交通まちづくりプラン」）。

(参考：他地区との比較)

	名駅地区	栄地区
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○名古屋駅の移転後、交通の要所として栄えた。現在はリニア開業を控え、次々と再開発が行われている。 ○高層のオフィスビルが立ち並び、百貨店も進出している。 ○名古屋駅地区街づくり協議会をはじめ、まちづくり活動が活発である。 ○公園や緑・水辺が乏しく、自然には恵まれない地区と言える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「名古屋城」築城と清洲越により、城下町として発展し、戦災復興に伴い久屋大通公園が整備され、緑豊かな都心と言える。 ○百貨店売上高シェアでは、名駅地区が増加傾向にあるものの、3地区で最も多く、名古屋における商業の中心地と言える。 ○交通利便性は高く、栄ミナミまちづくり株式会社の設立により、今後も地元のまちづくりが活発に行われると期待される。
歴史・なりたち	<ul style="list-style-type: none"> ○1886年(明治19年)、現在の笹島交差点付近に国鉄名古屋駅が設置され、路面電車の開業等により、交通結節点としての発展をはじめた。 ○1937年(昭和12年)、名古屋駅が現在地に移転。名駅通、桜通が整備される他、近鉄名古屋駅や名鉄名古屋駅が開業し、交通の集積地として発展した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「名古屋城」築城と清洲越により、城下町として発展した。
人口動向	<ul style="list-style-type: none"> ○2010年(平成22年)の国勢調査によると、昼間人口が増加傾向にあり、昼夜間人口比率は増加している。 ○人口密度は、市全域より低い。 ○オフィス等の立地により、今後も昼夜間人口比率の増加が進む見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2010年(平成22年)の国勢調査によると、昼間人口が減少傾向にあるが、昼間人口は3地区で最も多い。
土地利用建物用途	<ul style="list-style-type: none"> ○業務施設の立地が多い。 ○大型小売店舗の新設件数は、過去15年で10件と、栄地区に次いで多い。 ○過去10年の間で地元大手企業のうち、本社・本店・在名拠点所在地が名駅周辺へ移動した件数は2件。 	<ul style="list-style-type: none"> ○商業施設の立地が多く、大型小売店舗の新設件数は過去15年で11件と、3地区で最も多い。 ○銀行の本店・支店の立地は19行と3地区で最も多い。 ○民間調査によると百貨店売上高シェアでは、名駅地区が増加傾向にあるものの、3地区で最も多い。
公共交通道路基盤	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の鉄道路線が集結し、市内最大の乗降客を誇る名古屋駅は、全国有数のターミナルであり、市内から中部国際空港へ直結する数少ない駅の一つである。 ○今後は、リニア開業で東京と約40分で結ばれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地区内には、地下鉄栄駅をはじめ、地下鉄矢場町駅・久屋大通駅及び名鉄栄町駅等があり、地下鉄栄駅は、市内で地下鉄名古屋駅に次いで乗車人員の多い駅である。 ○地区内にはバス停が点在しており、交通利便性は高い。
公園・緑水辺	<ul style="list-style-type: none"> ○緑被率が低く、緑地空間は豊かとは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○久屋大通公園、若宮大通公園の結節点に位置し、まとまった緑がある。
にぎわい地域資源まちづくり活動	<ul style="list-style-type: none"> ○名古屋駅周辺では、名古屋駅地区街づくり協議会、名古屋駅太閤通口まちづくり協議会等が設立されており、イベント開催、社会実験などを実施している。 ○名駅南一丁目地区23番街区において、市街地再開発推進協議会が設立された。 ○過去10年の間で名駅周辺の再開発は14件あり、リニア開業に向けた建設ラッシュが進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビ塔をランドマークとした大型商業施設が点在する。 ○愛知県芸術文化センター等の大型文化施設が立地している。 ○栄ミナミまちづくり株式会社、栄ミナミエリアマネジメント社会実験協議会等が活動しており、イベント開催、社会実験などを実施している。
防災性	<ul style="list-style-type: none"> ○避難場所となる公園等が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○名古屋の洪積台地の上にあり、地盤が固い地区である。 ○久屋大通公園が、広域避難場所に指定されている。
関連計画等	<ul style="list-style-type: none"> ○「都市再生緊急整備地域」、「特定都市再生緊急整備地域」に指定されている。 ○国際レベルのターミナル駅を有する魅力と活力にあふれるまちを目指している(「名古屋駅周辺まちづくり構想」)。 ○ターミナル機能の強化、シンボル性の高いまちなみ形成を図り、歩行者空間を拡大することで回遊性を高め、にぎわいと魅力のあるまちの広がりを創出することを目指している(「名古屋市都心部将来構想」)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「都市再生緊急整備地域」、「特定都市再生緊急整備地域」に指定されている。 ○豊かな公共空間の活用による魅力形成と求心力のあるシンボリックな空間形成、交流機能の強化が図られている(「名古屋市都心部将来構想」)。 ○「栄まるごと感動空間」を目標に、最高の時間と居心地の提供を基本コンセプトとした2027年に向けた栄地区のまちづくりビジョンが示されている(「栄地区グランドビジョン—さかえ魅力向上方針—」)。

■エリア別にみた特徴のまとめ

	錦一丁目	錦二丁目
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 堀川や地域の氏神である泥江縣神社などがあり、歴史を感じるエリアである。 下園公園や御園小学校が立地しており、土地にゆとりがある。 宿泊施設が多いことから、観光・ビジネスによる来訪者を受け入れることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄の歓楽街に隣接しており、にぎわいのある飲食店等が立地している。 地元のまちづくり団体による活発なまちづくり活動が行われている。 繊維問屋街としての歴史を活かしたまちづくりが進められるエリアである。
歴史・なりたち	<ul style="list-style-type: none"> 泥江縣神社は、広く民衆の崇敬を集めた神社で、七代藩主・徳川宗春のころには、境内に芝居小屋も作られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 長者町繊維問屋街を中心に繊維産業によって発展した。
人口動向	<ul style="list-style-type: none"> 夜間人口が増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の夜間人口の割合が他エリアより高い。
土地利用 建物用途	<ul style="list-style-type: none"> 事務用地の割合が高く、金融・業務施設が多い。 宿泊施設の床面積が比較的高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務用地の割合が高く、金融・業務施設の立地も多い。 商業施設の割合も比較的高い。 繊維産業の衰退により、空きビルや空きテナントが増えている。また、老朽化したビルも増えている。
公共交通 道路基盤	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄伏見駅の出入口が3ヶ所（8番と9番と10番）ある他、名古屋高速道路の丸の内出口と錦橋出口が近く、バス停も点在しており、交通利便性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄伏見駅の出入口が3ヶ所（1番と2番と3番）、丸の内駅が2ヶ所（5番と6番）ある他、名古屋高速道路の丸の内出口が近く、バス停も点在しており、交通利便性が高い。
公園・緑 水辺	<ul style="list-style-type: none"> 下園公園の水景と緑がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年2月、名古屋市より低炭素モデル地区事業の認定を受け、環境にやさしく魅力的なまちを目指している。
にぎわい 地域資源 まちづくり活動	<ul style="list-style-type: none"> 歴史・景観資源が分布しており、地域の魅力となる場所が豊富である。 堀川沿岸では「なやばし夜イチ」をはじめ、定期的にイベント等を開催し、にぎわいを創出している。 小規模校対策による校舎移転の検討が進む御園小学校が立地している。 専用店舗（小売店）や飲食店舗が立地しているが、他エリアに比べて商業施設は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 寺社仏閣が点在している。 2ヶ所（錦二丁目7番地区と旧名古屋銀行本店ビル）で再開発事業が進行している。 長者町通で「よびす祭り」が開催される他、まちづくり協議会のプロジェクトと連携したイベントが開催されている。 歩道拡幅社会実験が実施されている。 歴史ある伏見地下街がある。 専用店舗（小売店）が区内内で最も多く、飲食店舗も立地している。
防災性	<ul style="list-style-type: none"> 御園小学校が避難所に指定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> エリア内に広域避難場所、避難所に指定された公園等がない（白川公園が広域避難場所に指定されている）。
関連計画等	<ul style="list-style-type: none"> エリアの一部が「特定都市再生緊急整備地域」に、全体が「都市再生緊急整備地域」に指定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> エリアの一部が「特定都市再生緊急整備地域」に、全体が「都市再生緊急整備地域」に指定されている。

	栄一丁目	栄二丁目
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 住居施設の割合が高く、今後も再開発により都心居住が加速するエリアである。 娯楽施設もあり、御園座をはじめとする文化が根付いている。 堀川や広小路通、御園通、三蔵通など、魅力的な通りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋商工会議所や事務所などが立地しており、ビジネス拠点としての特徴が伺える。 白川公園の豊かな緑に、名古屋市科学館・美術館、音楽ホールなどの立地もあり、落ち着いた文化的エリアと言える。
歴史・なりたち	<ul style="list-style-type: none"> 堀川など近世以降の名古屋のまちを支えてきた歴史資産が点在している。 	<ul style="list-style-type: none"> 本町通を中心に、近世以降の名古屋のまちを支えてきた歴史資産が点在している。
人口動向	<ul style="list-style-type: none"> 地区内では唯一、夜間人口密度が市全域より高く、今後の再開発事業に伴い、増加する見込みである。 	<ul style="list-style-type: none"> 夜間人口が増加傾向にある。
土地利用 建物用途	<ul style="list-style-type: none"> 地区内では唯一、住居施設の割合が金融・業務施設を上回るエリアである。 宿泊施設の床面積や商業用地の割合が比較的高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 白川公園等により公園用地の割合が高い（地区内では唯一、公園用地が道路用地を上回るエリア）。 事務所用地の割合が高く、文化施設用地の割合も比較的高い（床面積も同様）。
公共交通 道路基盤	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄伏見駅の出入口が2ヶ所（6番と7番）ある他、名古屋高速道路の白川出入口が近く、バス停も点在しており、交通利便性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 地下鉄伏見駅の出入口が2ヶ所（4番と5番）ある他、名古屋高速道路の白川出入口が近く、バス停も点在しており、交通利便性が高い。
公園・緑 水辺	<ul style="list-style-type: none"> 堀川の水景がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 白川公園の豊富な緑がある。
にぎわい 地域資源 まちづくり活動	<ul style="list-style-type: none"> 広小路通では、「広小路市」が開催されている。 歴史・景観資源が分布しており、地域の魅力となる場所が豊富である。 栄小学校が立地している。 飲食店舗が地区内で最も多い。 御園座をはじめ、娯楽施設が立地している。 	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋市科学館・美術館をはじめ、文化施設が多く立地している。 白川公園が広域避難場所に指定されている。 名古屋商工会議所が立地している。 「芸術と科学の杜」と称し、名古屋市科学館・美術館等が連携した取り組みが行われている。 専用店舗（小売店）や理容・美容店、クリーニング店が立地している。
防災性	<ul style="list-style-type: none"> 栄一丁目6番地区優良建築物等整備事業（御園座）では帰宅困難者の一時待機スペースと防災倉庫が計画されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 白川公園が広域避難場所に指定されている。
関連計画等	<ul style="list-style-type: none"> エリアの一部が「特定都市再生緊急整備地域」と「都市再生緊急整備地域」に指定されている。 広小路通が、歩いて楽しいメインストリートとして位置づけられ（「名古屋市都心部将来構想」）、都市景観形成地区にも指定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> エリアの一部が「特定都市再生緊急整備地域」と「都市再生緊急整備地域」に指定されている。

第2章 伏見地区のまちづくりの課題と方向性

名古屋市では、2027年のリニア開業（東京―名古屋間）に向けたまちづくりが活発化しており、伏見地区のまちづくりにおいても、『リニア』を一つの目標として意識することは重要である。

また、リニア開業によって、国内外の来訪者が多数、名古屋駅に訪れることが想定されることから、そのインパクトを最大限に活かすためにも、如何にして来訪者を都心全域に回遊させるかが大切であり、そのためには、伏見地区をはじめとした各地区が魅力と個性を持たなければならない。

そこで、第2章では、本ビジョンの第1章で整理した伏見地区の歴史・現状を踏まえながら、地区を取り巻く状況と強み・弱みを整理（P25 参照）し、まちづくりの課題を洗い出すとともに、リニア開業を見据えた目指すべきまちの姿についてまとめた。

2-1 まちづくりの課題

■課題の整理

1. 地区の魅力・個性を活かしたまちづくり

ライフスタイルの多様化や、社会・経済のグローバル化、人口減少・高齢化社会が進展するなか、国内外の都市間競争に打ち勝つためには、「ビジネスや飲食店の集積」、「活発なエリアマネジメント」、「芸術・文化施設の立地や地域資源の集積」、「豊かな自然」など、伏見地区が持つ魅力・個性を活かし、伸ばすまちづくりを行うことが必要である。

2. 住みよいまちの整備

再開発等により、今後、居住者増が見込まれることから、人にやさしいまちづくりを進めるとともに、更なる都心居住を促すため、商業店舗の新たな立地や、落ち着きと気品のあるまちを保つためのルールづくりが必要である。

3. 都心回遊を促進する役割

リニア開業のインパクトを名古屋市全体が享受できるよう、交通利便性を更に高め、「名駅地区」や「栄地区」、「名城地区」、「大須地区」が持つ魅力を繋げ、都心回遊を促進する役割が求められる。

4. 災害に強いまちづくり

南海トラフ巨大地震や集中豪雨の発生が懸念されるなか、白川公園などの広域避難場所を活用した災害に強いまちづくりが、ハード・ソフトの両面で求められている。

(名古屋市及び伏見地区を取り巻く状況)

項目	状況
社会・経済	<ul style="list-style-type: none"> ◆ライフスタイルが多様化している。 ◆グローバル化、人口減少・高齢化社会が進展している。
機会	<ul style="list-style-type: none"> ◆リニア開業による交流人口の増加。 ◆リニア開業を見据えたまちづくりの活発化（再開発の活発化等）。
脅威	<ul style="list-style-type: none"> ◆南海トラフ巨大地震や集中豪雨などの自然災害の発生。 ◆東京一極集中の加速（ストロー現象）。

(伏見地区の強みと弱みの比較)

項目	強み	弱み
交流機能	<ul style="list-style-type: none"> ◆ホテル等が立地していることから、ビジネス客や観光客が会議・宿泊で利用しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ビジネス客や観光客の回遊性が乏しい（まちの魅力が伝わっていない）。
交通結節	<ul style="list-style-type: none"> ◆幹線道路や伏見駅があり、交通利便性が高い。 ◆魅力ある地区（名駅、栄、名城、大須）の中心に位置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆回遊を促す交通案内、外国語表記が少ない。 ◆魅力ある地区（名駅、栄、名城、大須）を繋げる機能が弱い。
エリアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の特徴を活かした活発なエリアマネジメントが行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各エリアマネジメントの動きにおいて、連携・情報共有が進んでいない。
歴史・芸術・文化 地域資源・通り	<ul style="list-style-type: none"> ◆歴史的な建物や芸術・文化施設が多い。 ◆都心にあって憩い空間がある。 ◆文化・観光ポイントとして活用可能な資源が豊富。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ブロック名、旧町名、通り名をはじめ、地区の歴史を活かせていない。また、PRが不足している。 ◆通りのデザインガイドラインで、町並みを維持・整える必要がある。
ビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ◆名古屋商工会議所、日本銀行名古屋支店をはじめ、企業が集積している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆先進的技術・ビジネスがまちづくりに活かされていない。
商業・飲食	<ul style="list-style-type: none"> ◆商業施設や飲食店の集積による“駅そばコンパクト”なまちづくりが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆増加する人口に対し、生活に密着した生鮮食料品・買回り品店舗等の商業機能が不足している。
都心居住	<ul style="list-style-type: none"> ◆再開発等により、居住者増が見込まれており、地区内の消費が増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆バリアフリーなど、歩きやすく、人にやさしいまちづくりが不十分である。
憩い・落ち着き	<ul style="list-style-type: none"> ◆公園・街路樹・アートが点在し、落ち着きのあるまちの雰囲気がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆まちの気品を損ねかねない施設等を規制するルールが不足している。
防災	<ul style="list-style-type: none"> ◆地盤が固く高い。 ◆広い避難場所（白川公園）が確保されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆防災施設が不足している。 ◆帰宅困難者対策など、ソフト面の対策が弱い。

2-2 まちづくりの方向性

■目指すべきまちの姿

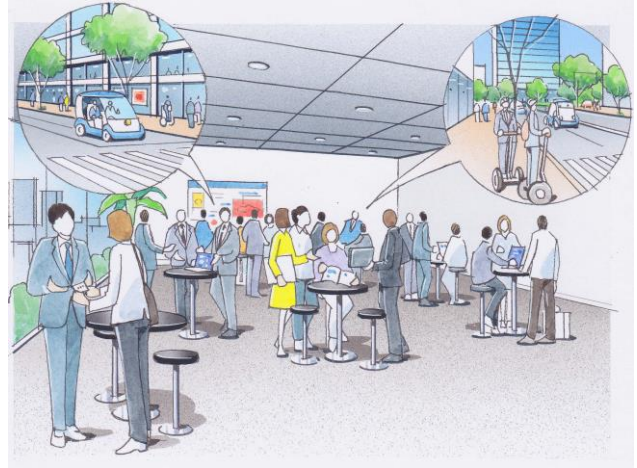
LIFE ～住む人 働く人 訪れる人に愛される“伏見”～**Live** 人が住み**Innovation** 革新的な技術・ビジネスが広がる**Fun** 歩いて楽しい個性にあふれた**Entertainment** 芸術・文化が香るおもてなしのまち

■まちづくりの方針

方針
1

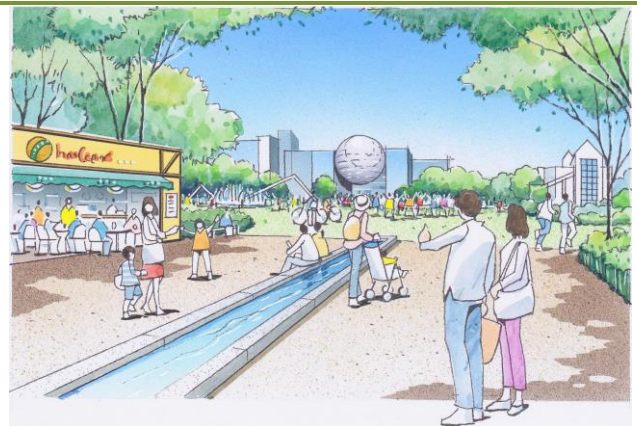
ビジネスが育つまち —高いビジネスマインドがあふれる—

ビジネス交流が活発に行われ、国内外の多様な企業が集積するとともに、ハード・ソフトの両面において、最先端技術を活用した革新的・先進的な取り組みが行われている地区となる。

方針
2

五感で味わうまち —歩いて楽しみたい魅力と個性—

御園座や名古屋市科学館・美術館、電気文化会館等の芸術・文化施設や豊富な地域資源、江戸時代から脈々と積み重ねてきた歴史とその資産、飲食店などのサービス業の集積を活かすとともに、地区が持つ魅力や個性を伸ばし、歩いて楽しみたいと思われる地区となる。

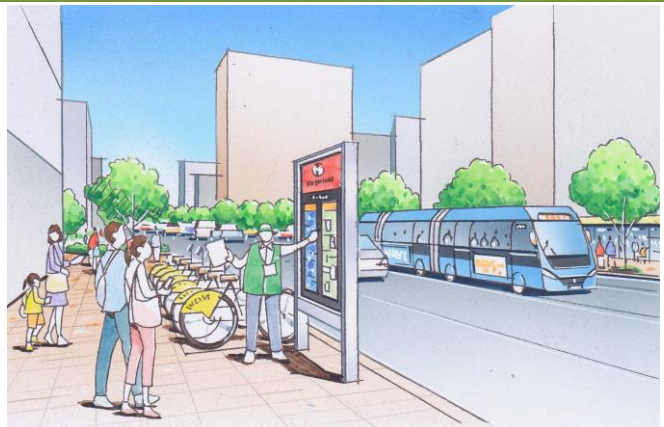


**方針
3****住みたくなるまち —憧れを抱く居住環境—**

都心にあって、堀川や白川公園といった豊かな自然を有する特性を活かし、幅広い層の日本人と外国人居住者を受け入れるワンランク上の生活を提供する地区となる。

**方針
4****ひとを繋げ結ぶまち —おもてなし機能とかなめ機能—**

充実した観光案内や、高い交通利便性による“おもてなし機能”によって、来訪者が「芸術・文化が香るまち」としての魅力を感じることができるとともに、名駅・栄・名城・大須地区の中心に位置するという特性を活かし、都心回遊を促す“かなめ機能”を発揮する地区となる。



第3章 提言

本章では、第2章で示したまちづくりの方向性から、その実現のために必要となる施策について提言を行う。また、伏見のまちづくりは、『リニア』が一つの契機であり、目標となることから、本章においては、開業までに行うべき施策を短期（5年以内）と中期（5～10年）、開業後の更なる発展のための施策を長期（10～20年）として整理するとともに、施策のなかにおいて、最も必要性が高いものを重要項目とした。

なお、時間軸については、一つの目安であり、各施策については、可能な限り前倒して実現することが求められている。

■まちづくりの方針並びに施策一覧

※重要:重要項目

方針1 ビジネスが育つまち —高いビジネスマインドがあふれる—

1-1 ビジネス環境の向上

- ①ビジネス拠点としての環境整備 短期 重要
- ②空きビル・テナント対策の促進 短期
- ③国内外の企業誘致 中期

1-2 先進的なビジネスモデルのまちなか展開

- ④最先端技術のまちなか展開促進 中期
- ⑤先進的なビジネスモデルの支援体制強化 中期

方針3 住みたくなるまち —憧れを抱く居住環境—

3-1 都心居住環境の向上

- ⑬地域特性に応じたルールづくり 短期 重要
- ⑭複合型インターナショナルスクールの設置 中期 重要
- ⑮御園小学校跡地の高度利用 長期
- ⑯多様な住宅物件の開発促進 長期

3-2 防災機能の強化

- ⑰官民連携による防災対策と情報共有システムの構築 短期
- ⑱集中豪雨などを想定した雨水対策の推進 中期

方針2 五感で味わうまち —歩いて楽しみたい魅力と個性—

2-1 地区・通り毎の魅力づくり

- ⑥歩行者空間の活用 短期 重要
- ⑦民間（企業）主導による白川公園の活用 中期 重要
- ⑧芸術・文化施設を核とした回遊空間づくり 中期 重要
- ⑨歴史軸としての本町通の活用 中期

2-2 地元によるにぎわいづくり

- ⑩まちづくり協議会・団体の交流促進と活動強化 短期 重要
- ⑪堀川の水辺空間の活用 中期
- ⑫伏見駅における駅ナカビジネスの推進 中期

方針4 ひとを繋げ結ぶまち —おもてなし機能とかなめ機能—

4-1 おもてなしの充実

- ⑲伏見駅のバリアフリー施設の整備 中期 重要
- ⑳広小路伏見交差点の改良 短期
- ㉑観光案内機能の強化 短期

4-2 都心の回遊性向上のための整備

- ㉒新たな路面公共交通システムの導入 中期 重要
- ㉓コミュニティサイクルの導入 中期
- ㉔堀川の舟運の定期運航化 中期

方針1 ビジネスが育つまち —高いビジネスマインドがあふれる—

1-1 ビジネス環境の向上

すでにビジネス集積が見られる伏見地区においては、一層活発な企業活動が地区内で展開されるよう、新たなビジネスモデルを提案するベンチャー企業や起業予定者をはじめとした高いビジネスマインドを持つ事業者を誘致し、他企業とのビジネス交流を図ることがまちの活性化に繋がるため、以下の施策を提言する。

① ビジネス拠点としての環境整備

短期

重要項目

多種多様な企業が集うビジネス拠点である名古屋商工会議所を中心に、ビジネス交流やビジネスマッチングを支援する。

② 空きビル・テナント対策の促進

短期

空きビルや空きテナントを抱えるビルオーナーとベンチャー企業とのマッチングを図るため、情報集約窓口（WEBサイト等）を設け、マッチングを図る。また、資金面等の理由から建て替えができないビルを活用するため、リノベーションによる味わいある外観を残した建物更新を促すためのインセンティブを創設する。

③ 国内外の企業誘致

中期

交通利便性や地理的優位性を活かし、ベンチャー企業や飲食店をはじめ、多様な国内外の企業の誘致活動を行うとともに、立地企業への支援策を拡充する。

1-2 先進的なビジネスモデルのまちなか展開

自動運転技術やパーソナルモビリティなどの最先端技術の活用が検討されているなか、今後、それらの技術を活用した先進的なビジネスモデルが生まれてくることが予想される。そして、そのビジネスモデルが、実際に地区内で展開されることは、国内外から高い注目が集まり、まちのブランド力向上や企業誘致に繋がる。そこで、以下の施策を提言する。

④ 最先端技術のまちなか展開促進

中期

自動運転技術やパーソナルモビリティなどの最先端技術のまちなか展開を促進するため、伏見地区で社会実験を行うための規制緩和や実施場所（公共空間等）の提供などを行う。

⑤ 先進的なビジネスモデルの支援体制強化

中期

先進的なビジネスモデルに対する支援（補助金等）を創設するとともに、最先端技術を活かした新たなビジネスモデルの創出を促す。

方針2 五感で味わうまち 一歩いて楽しみたい魅力と個性―

2-1 地区・通り毎の魅力づくり

地区内での回遊性を高めるためには、各エリア（錦一丁目・二丁目、栄一丁目・二丁目）や各通りが持つ魅力が最大限発揮され、歩いて楽しいまちとなるとともに、ブランドイメージの定着を図ることが必要となることから、以下の施策を提言する。

⑥ 歩行者空間の活用

短期

重要項目

メインストリートである広小路通を中心に、歩行者空間でのオープンカフェやアーティストの活動、イベント実施を支援する。

⑦ 民間(企業)主導による白川公園の活用

中期

重要項目

柔軟な発想による白川公園の魅力向上を図るため、行政主導の公園管理から、民間（企業）による商業施設の設置・運営に合わせた公園管理を行う。また、発災時には商業施設が防災拠点として機能するよう、民間（企業）と行政によるハード・ソフト整備を行う。

⑧ 芸術・文化施設を核とした回遊空間づくり

中期

重要項目

御園座やしらかわホールをはじめとした芸術施設や、世界最大級のプラネタリウムを持つ名古屋市科学館を活かすため、周辺道路の再配分（長島町通の歩道拡張等）を行うとともに、演劇やコンサートの余韻を楽しめる地元主導によるシンボリックな空間整備を行う。

⑨ 歴史軸としての本町通の活用

中期

江戸時代のメインストリートである本町通において、歴史性を演出する環境整備（当時の様子を紹介する看板の設置、街路灯等の形状や色合いの調整）や、モバイル端末等を活用したPR、祭りの支援など、歴史の見える化を図る。

2-2 地元によるにぎわいづくり

まちのにぎわい創出のためには、市民をはじめ、地元企業や地権者等がまちづくりの担い手として、活発なエリアマネジメントを展開し、イベントの実施や環境整備を行うことが重要である。また、ビジネスホテルからシティホテルまでが立地する伏見地区においては、幅広い来訪者層の受け入れが可能であることから、以下の施策を提言する。

⑩ まちづくり協議会・団体の交流促進と活動強化

短期

重要項目

行政も参画した地区内のまちづくり協議会・団体の情報交換や連携強化を図るプラットフォームを設置する。

⑪ 堀川の水辺空間の活用

中期

沿川ビル・店舗が堀川と調和した整備を行う。また、沿川における地元イベントを拡充する。

⑫ 伏見駅における駅ナカビジネスの推進

中期

伏見駅での商業のにぎわいを創出するため、駅の一部をリニューアルし、駅ナカビジネスを推進する。

方針3 住みたくなるまち ―憧れを抱く居住環境―

3-1 都心居住環境の向上

地区内の居住者増が見込まれる伏見地区は、緑や水辺空間があり、ビジネスや飲食店が集積し、文化・芸術施設が立地するなど、多様なライフスタイルに適應できる優れた“住環境機能”を有している。このようななか、日本人のみならず、外国人も対象とした幅広い層の居住者がより快適に生活できるワンランク上の空間を整備するため、以下の施策を提言する。

⑬ 地域特性に応じたルールづくり

短期

重要項目

にぎわいづくりのためのマンション低層階の商業店舗化や、まちの気品を保つための規制など、地域特性に応じたルールづくりを行政参画のもと、地元主導で検討する。

⑭ 複合型インターナショナルスクールの設置

中期

重要項目

都心のなかに、外国人居住者向けのクラスや、国際性の高い教育を望む日本人居住者向けのクラスなどを複合的に有するインターナショナルスクールを設置する。

⑮ 御園小学校跡地の高度利用

長期

小規模校対策による校舎移転によって生まれる御園小学校跡地について、にぎわいを生む商業施設等の導入可能性も加味しつつ、防災や地域コミュニティーの形成に資する施設を中心に土地の高度利用を図る。

⑯ 多様な住宅物件の開発促進

長期

多様な居住者を受け入れることができるよう、都市機能の更新や土地の有効・高度利用に合わせて、賃貸住宅をはじめとした様々な住宅開発を推進する。

3-2 防災機能の強化

「安全・安心」なまちとしての機能を高めることは、居住環境の向上に繋がるだけでなく、企業の立地を促す際にも大きな要素の一つとなる。今後発生が予想されている巨大地震や、集中豪雨などの自然災害に対応するため、以下の施策を提言する。

⑰ 官民連携による防災対策と情報共有システムの構築

短期

発災時の被害拡大防止や混乱の早期沈静化に向け、帰宅困難者を民間ビルなどで受け入れるとともに、官民の情報交換ネットワーク網の構築、防災拠点としての白川公園の活用など、官民連携による体制を強化する。

⑱ 集中豪雨などを想定した雨水対策の推進

中期

集中豪雨などが発生した場合の道路の冠水を防ぐため、すでに取り組みされている浸透・貯留施設（雨水タンク等）の設置などの雨水対策を推進する。

方針4 ひとを繋げ結ぶまち ―おもてなし機能とかなめ機能―

4-1 おもてなしの充実

“おもてなし機能”の向上を図るには、交流結節点であり玄関口となる伏見駅の整備や、交差点の改良による交通利便性を高めるとともに、地区の魅力発信を行うことが重要であることから、以下の施策を提言する。

⑱ 伏見駅のバリアフリー施設の整備

中期

重要項目

地区の玄関口にふさわしい誰もが利用しやすい駅とするため、バリアフリーなどに配慮する。

⑳ 広小路伏見交差点の改良

短期

通行量が多く幅員が広い通りが交差する広小路伏見交差点において、安全性を高める。また、地区の交流結節点として、にぎわいが分断されないための改良を行うとともに、伏見のランドマークとなる空間整備を行う。

㉑ 観光案内機能の強化

短期

観光施設への案内看板の多言語化や、観光案内所、デジタルサイネージなどによってまちの情報発信を行うとともに、国内外の来訪者に伏見地区の地域資源を紹介するボランティアガイドを育成するなど、行政と民間（企業）が連携し、ハード・ソフトの両面から観光案内機能を強化する。

4-2 都心の回遊性向上のための整備

地理的特性を最大限活かす“かなめ機能”を発揮し、周辺地区との回遊性を強化するためには、多様な交通モードの整備が重要であることから、以下の施策を提言する。

㉒ 新たな路面公共交通システムの導入

中期

重要項目

行政が検討している革新的なタイヤベースシステムについて、伏見地区内及び地区外との回遊性向上に繋がるようなルートを設定するとともに、民間（企業）の知恵やノウハウを活かした導入を行う。

㉓ コミュニティサイクルの導入

中期

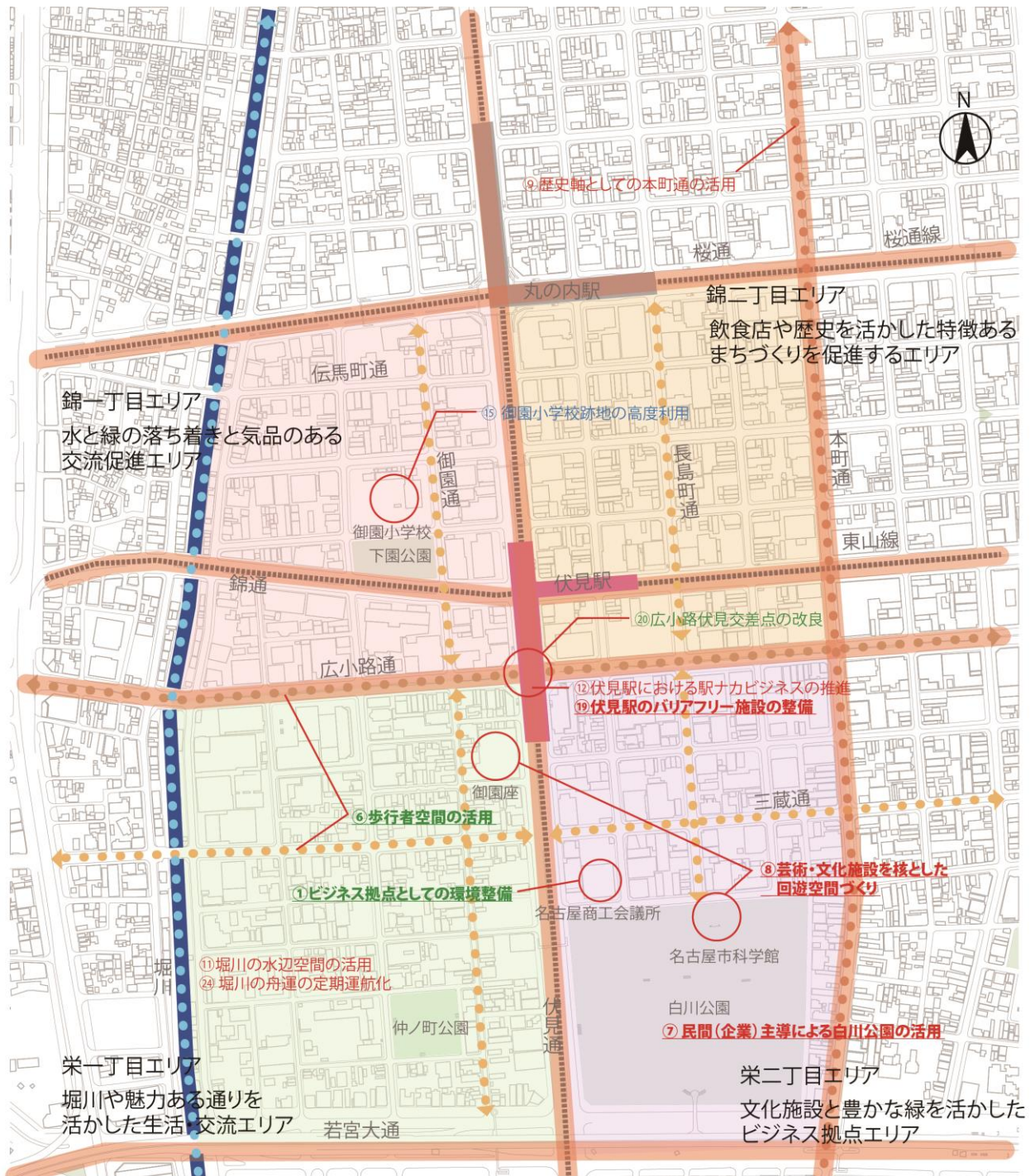
民間（企業）によるコミュニティサイクルの導入に向け、拠点整備等を行う。また、利用促進に向け、伏見通などの街路樹整備（自転車専用レーンの日除け）を国に働きかける。

㉔ 堀川の舟運の定期運航化

中期

名古屋城や名古屋港、白鳥国際会議場などへのアクセス強化のため、民間（企業）による堀川における舟運の運航航路を整備するとともに、定期運航化を行う。

■ 提言図示



方針1
ビジネスが育つまち
—高いビジネスマインドがあふれる—

- 1-1 ビジネス環境の向上
 ① **ビジネス拠点としての環境整備**
 ② 空きビル・テナント対策の促進
 ③ 国内外の企業誘致
- 1-2 先進的なビジネスモデルの
 まちなか展開
 ④ 最先端技術のまちなか展開促進
 ⑤ 先進的なビジネスモデルの支援
 体制強化

方針2
五感で味わうまち
—歩いて楽しみたい魅力と個性—

- 2-1 地区・通り毎の魅力づくり
 ⑥ **歩行者空間の活用**
 ⑦ **民間(企業)主導による白川公園の活用**
 ⑧ **芸術・文化施設を核とした回遊空間づくり**
 ⑨ 歴史軸としての本町通の活用
 2-2 地元によるにぎわいづくり
 ⑩ **まちづくり協議会・団体の交流促進と
 活動強化**
 ⑪ 堀川の水辺空間の活用
 ⑫ 伏見駅における駅ナカビジネスの推進

方針3
住みたくなるまち
—憧れを抱く居住環境—

- 3-1 都心居住環境の向上
 ⑬ **地域特性に応じたルールづくり**
 ⑭ **複合型インターナショナルスクールの
 設置**
 ⑮ 御園小学校跡地の高度利用
 ⑯ 多様な住宅物件の開発促進
 3-2 防災機能の強化
 ⑰ 官民連携による防災対策と情報共有
 システムの構築
 ⑱ 集中豪雨などを想定した雨水対策の
 推進

方針4
ひとを繋げ結ぶまち
—おもてなし機能とかなめ機能—

- 4-1 おもてなしの充実
 ⑲ **伏見駅のバリアフリー施設の整備**
 ⑳ 広小路伏見交差点の改良
 ㉑ 観光案内機能の強化
 4-2 都心の回遊性向上のための整備
 ㉒ **新たな路面公共交通システムの導入**
 ㉓ コミュニティサイクルの導入
 ㉔ 堀川の舟運の定期運航化

凡例
 緑…短期 赤字…中期 青…長期
 太字下線…重要項目

参考資料

1) 地元の意見

ヒアリングした地元の方の意見（課題）。

【主な意見】

●個性を活かしたまちづくりの誘導

- ・名駅や栄に負けない魅力づくりが大切である。
- ・エリア（錦一丁目・二丁目、栄一丁目・二丁目）によって異なる特色を伸ばしたまちづくりを展開して欲しい。

●文化・歴史資源の活用

- ・堀川を意識させるまちの仕掛けづくりをして欲しい。
- ・堀川の水上交通の再生や船着き場の整備、伏見駅からのアクセス性向上をお願いしたい。
- ・伏見地区ならではの文化、芸術を発信すべきである。
- ・江戸時代から続く神社や祭りをPRすべきである。

●都心居住の促進

- ・都心のにぎわいを活かした職住近接環境を形成することが大切である。
- ・都心ならではの住み方の提案が重要。

●新たな商業・業務機能の誘発

- ・リニア開業を見据えた地区のにぎわい機能の継承・集積を行うべきである。
- ・来訪者の増加に向けた商業機能の充実が重要。
- ・マンション・オフィスの低層階への商業店舗の誘致が必要。
- ・ビルの空室を活用した地区の活性化が大切。

●公共空間等の活用

- ・新たににぎわい創出のための交流拠点づくりをお願いしたい。
- ・御園小学校跡地の活用を検討すべきである。

●地区内のにぎわい・回遊性向上

- ・町丁目（エリア）間の交流促進のための地下鉄駅・幹線道路（伏見通・広小路通）空間の再生・整備が必要である。
- ・広小路通と錦通に挟まれたエリアへの新たな都市機能の導入を検討すべきである。
- ・伏見駅から名古屋市科学館へのアクセス向上のための情報サービスの充実が必要。

●防災機能への対応

- ・大規模災害に備えた地域防災力の強化をお願いしたい。
- ・御園小学校の校舎移転により不足する避難場所の確保が必要である。

●再開発のあり方

- ・地域と連携した再開発を推進して欲しい。
- ・再開発を契機としたエリアマネジメントの展開が大切である。

●継続的なイベントの開催

- ・イベントを継続的に続けるための仕掛けが必要である。

2) 伏見地区における関連計画

●名古屋市都市計画マスタープラン【平成 23 年 12 月策定（名古屋市）】

（計画の概要）

本プランは、長期的な視点に立ち、将来の都市像やまちづくりの方向性を示すとともに、地域住民・企業・行政などの協働によるまちづくりを進めるうえでのガイドラインとなる、まちづくりの基本方針。

（伏見地区の位置づけ）

- ・名古屋市が目指すべき都市構造は「集約連携型都市構造」とされ、伏見地区は戦略的まちづくりを進めるための「重点地域」に位置づけられている。

※集約連携型都市構造＝駅を中心とした歩いて暮らせる圏域（駅そば）に、商業・業務・住宅・サービス・文化等の多様な都市機能が適切に配置・連携されていて、更に景観・歴史・環境や防災に配慮された、魅力的で安全な空間づくりがなされている都市構造。

出典：名古屋市ホームページ（<http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/53-10-9-4-0-0-0-0-0-0.html>）

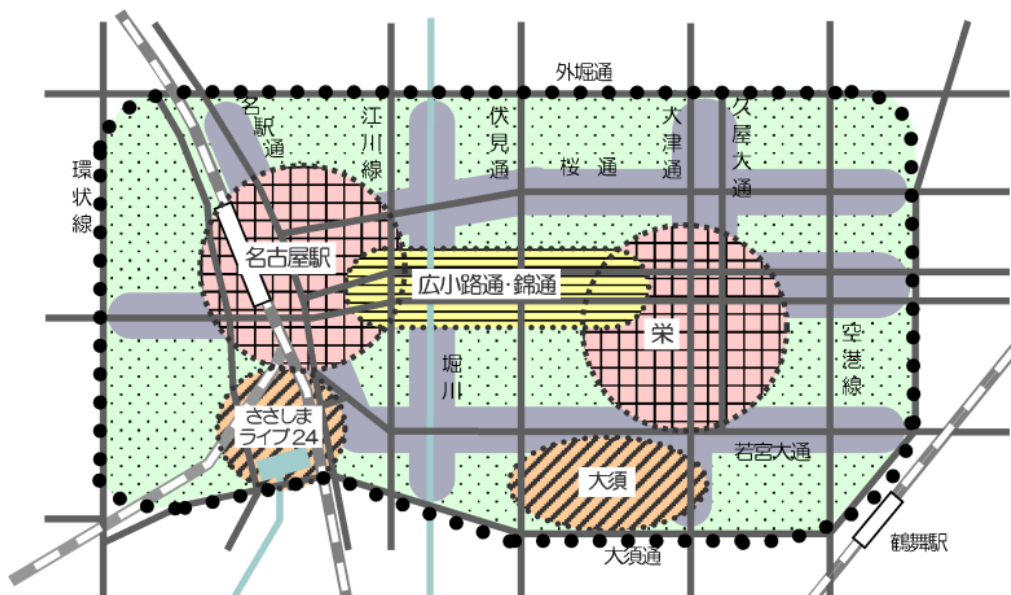
●名古屋市都心部将来構想【平成 16 年 3 月策定（名古屋市）】

（計画の概要）

本構想は、名古屋都心部において、名古屋大都市圏の中心地として、中枢機能の集積と広域交流機能の一層の充実を図るとともに、風格ある魅力的な都市空間を形成するために、市民、企業、行政など多様な主体がまちづくりを進めていくうえでの長期的視点に立った共通目標を明らかにすることを目的としている。

（伏見地区の位置づけ）

- ・二つの中心核（「名駅地区」と「栄地区」）を繋ぎ、一体的な都心を形成するメインストリートにふさわしい中枢管理機能と広域集客機能の集積・強化を図る。
- ・広小路通には魅力的な商業機能が連続するように配置し、歩いて楽しい軸を形成する。
- ・中心核や骨格軸等を支援・補完する機能や新産業機能を配置するとともに、都心居住機能を高める。



出典：名古屋市ホームページ（<http://www.city.nagoya.jp/jutakutoshi/page/0000012756.html>）

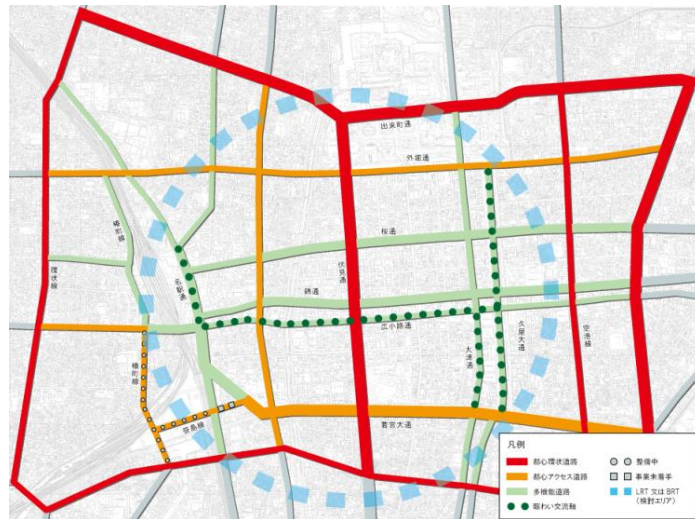
●なごや交通まちづくりプラン【平成26年9月策定（名古屋市）】

（計画の概要）

本プランは、なごや新交通戦略推進プランのリーディング・プロジェクト「みちまちづくり」（自動車が中心であったこれまでの道路空間を、人が主役の賑わいや憩いの空間としての「みち」へと変えることで「まち」を変えていく取り組み）を進めていくための計画。

（伏見地区の位置づけ）

- 歩行者空間の拡大や賑わいを誘導するさまざまな取り組みを行う「賑わい交流軸」として、広小路通が位置づけられている。



出典：名古屋市ホームページ (<http://www.city.nagoya.jp/iutakutoshi/page/0000050284.html>)

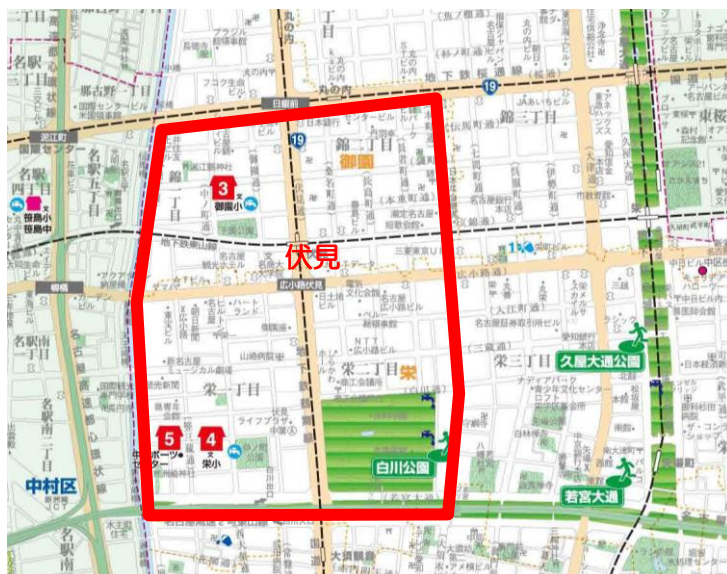
●名古屋市地域防災計画【平成28年6月修正（名古屋市）】

（計画の概要）

本計画では、主に地震火災が延焼拡大した場合に、周辺地域からの避難者を収容し、避難者の生命を保護するために、必要な面積を有する公園や緑地等が広域避難場所として指定されている。

（伏見地区の位置づけ）

- 伏見地区では、白川公園及び若宮大通が広域避難場所として指定されている。



出典：名古屋市ホームページ (<http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/53-2-4-0-0-0-0-0-0-0.html>)

●都市再生緊急整備地域「名古屋駅周辺・伏見・栄地域」【約 401ha 平成 27 年 7 月指定（国）】

（計画の概要）

名古屋駅周辺地域から栄地区にかけての都心地域において、建築物の更新等により、名古屋の玄関口及び中心にふさわしい、安心・安全で国際的・広域的な商業・業務拠点を形成するための整備地域としている。

（伏見地区の位置づけ）

- ・緊急かつ重点的に市街地の整備を推進する「都市再生緊急整備地域」として、全国で59地域（平成28年11月24日時点）が指定されており、伏見地区は、半分以上が該当している。

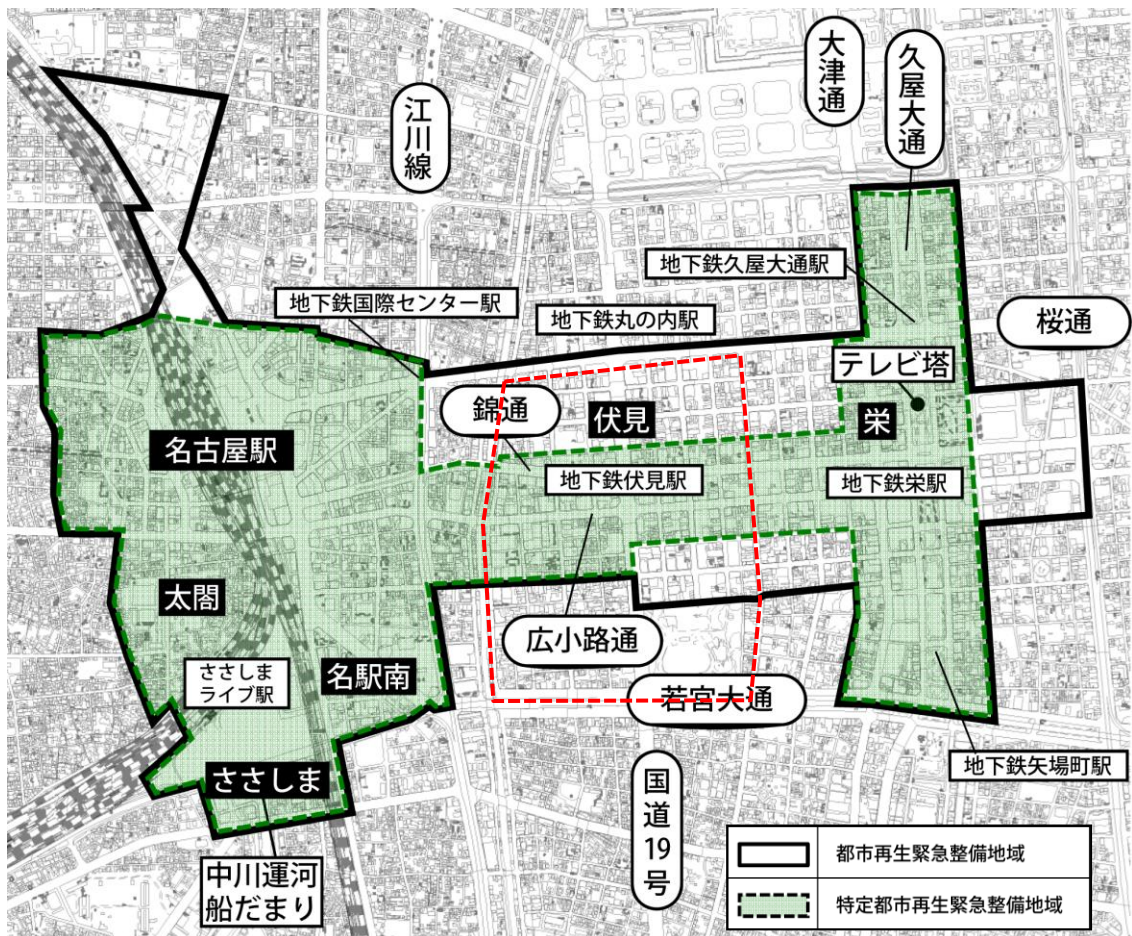
●特定都市再生緊急整備地域「名古屋駅周辺・伏見・栄地域」【約 303ha 平成 27 年 7 月指定（国）】

（計画の概要）

名古屋駅周辺地域と栄地区の2核一体の都心部において、リニアの整備を見据え、豊かな公共空間を活用しながら都市のモビリティを高めるとともに、モビリティ産業に関わる企業・人材や、文化交流を支える都市機能を促進することで、名古屋大都市圏の玄関口にふさわしい、高い国際競争力を発揮する世界的先進地区を形成するための整備地域としている。

（伏見地区の位置づけ）

- ・「都市再生緊急整備地域」のうち、都市の国際競争力の強化を図るうえで、特に有効な地域として政令で定めた「特定都市再生緊急整備地域」は、全国で13地域（平成28年11月24日時点）が指定されており、伏見地区も一部が該当している。



出典：名古屋市ホームページ（<http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/53-10-9-27-0-0-0-0-0-0.html>）

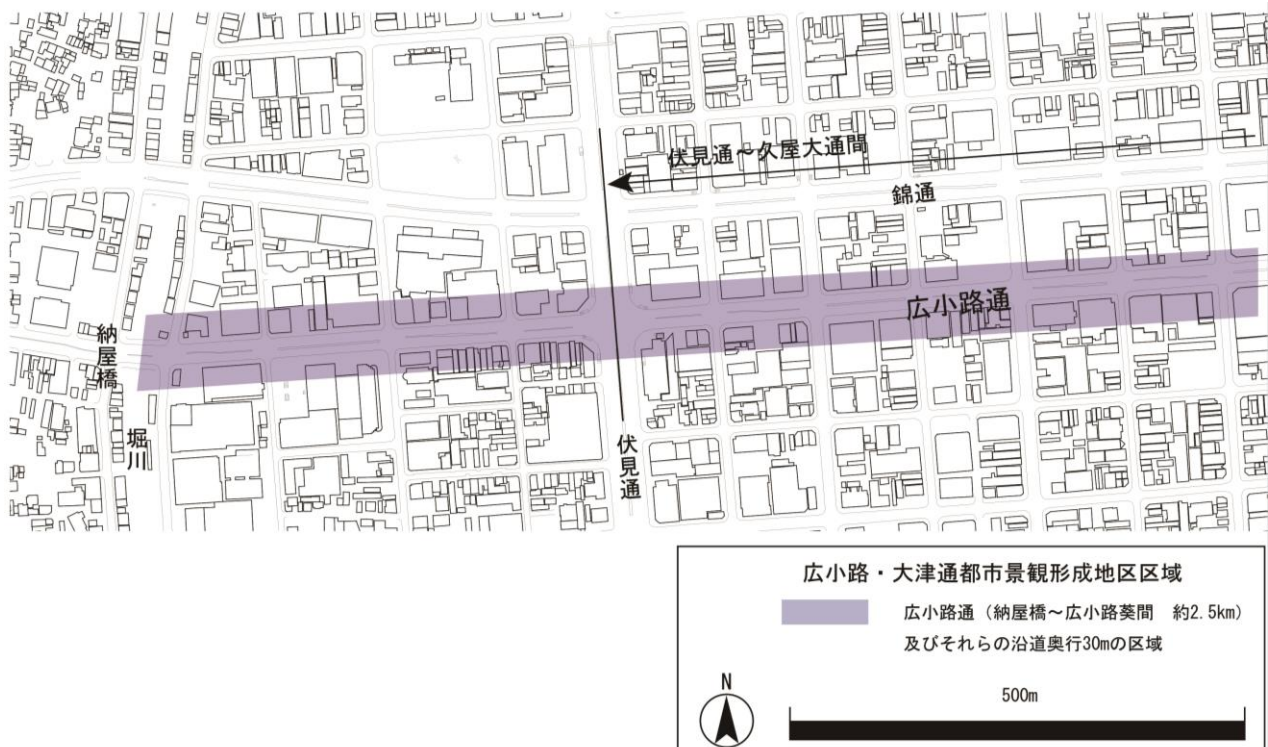
●都市景観形成地区【指定（名古屋市）】

（計画の概要）

名古屋市は、景観計画区域内（名古屋市全域）で、特に良好な景観の形成を進める地区として、「都市景観形成地区」を指定している。「都市景観形成地区」内で建築物の新築、工作物の新設、屋外広告物の表示等を行う場合は、景観形成基準への適合とともに、届出や許可が必要となる。

（伏見地区の位置づけ）

- ・ 広小路通が広小路・大津通都市景観形成地区（広小路通地区（納屋橋から広小路交差点まで、広小路通及び沿道奥行き30mの区域））に指定されている。



出典：名古屋市ホームページ（<http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/53-10-15-3-2-0-0-0-0-0-0.html>）

●栄地区グランドビジョン ～さかえ魅力向上方針～【平成 25 年6月策定（名古屋市）】

・基本コンセプト：『最高の時間と居心地を提供』

- ◇多様な楽しみを満載 →買い物、食事、催事、芸術、遊び、学び、デザイン
- ◇特別な場所を演出 →美しいまちなみ、豊かな緑、歴史的情景、洗練された建物、くつろぎの場
- ◇魅力的な情報を発信 →息づく伝統、最新の流行、イベントの開催、多様なサービス
- ◇全ての来訪者を歓迎 →おもてなしの心、人が中心の施設、満足感の提供、リピーターの獲得

・基本方針

方針1 公共空間の再生 ～にぎわいと魅力にあふれた世界に誇れるシンボル空間の形成～

道路（広小路通・大津通・錦通）

公園（久屋大通公園）

地下空間

活用促進（道路・公園・地下空間など）

方針2 民間再開発の促進 ～機能更新が進み活気あふれる都市空間の形成～

民間再開発ルールづくり

低利用地街区の開発や老朽化建築物の更新

方針3 界隈性の充実 ～個性を持った多様で魅力的な界隈の創出～

魅力的な界隈形成・エリアマネジメント

回遊性の向上

都心における連携の強化



栄地区グランドビジョン
～さかえ魅力向上方針～

平成16年3月、名古屋市は、続く20年間における都心部のまちづくりの指針となる「名古屋市都心部将来構想」を定め、まちづくりを推進してきました。

しかし、国内外の交流機会の拡大が進む中、魅力ある圏地の形成に向けた都市間競争が激しさを増しています。さらに、そのような傾向は、平成19年に東京～名古屋間で計画されている「リニア中央新幹線」の開業によって、より一層強まると考えられます。名古屋市では、このリニア中央新幹線の開業を追い風とらえ、大都市圏の中核となる名古屋都心部の魅力向上をさらに進めることが急務と考えています。

名古屋市の都心部は、名古屋駅を中心とした名古屋駅地区と、栄駅を中心とした栄地区とが大きな2つの中心核を形成しています。名古屋駅地区と栄地区が連携あるいは役割を分担し、それぞれ個性を活かした魅力向上を図ることが必要となっています。

このような状況を踏まえ、リニア中央新幹線の開業までの概ね15年間を対象に、「名古屋市都心部将来構想」を踏まえた栄地区のまちづくりを実現するための基本方針となる「栄地区グランドビジョン～さかえ魅力向上方針～」をとりまとめました。このビジョンを、市民や栄地区のまちづくりに関係するさまざまな立場の人と共有し、それぞれの役割と相互の協力により取組みを始めていきます。



出典：名古屋市ホームページ (<http://www.city.nagoya.jp/jutakutoshi/page/0000047604.html>)

●名古屋駅周辺まちづくり構想【平成 26 年9月策定（名古屋市）】

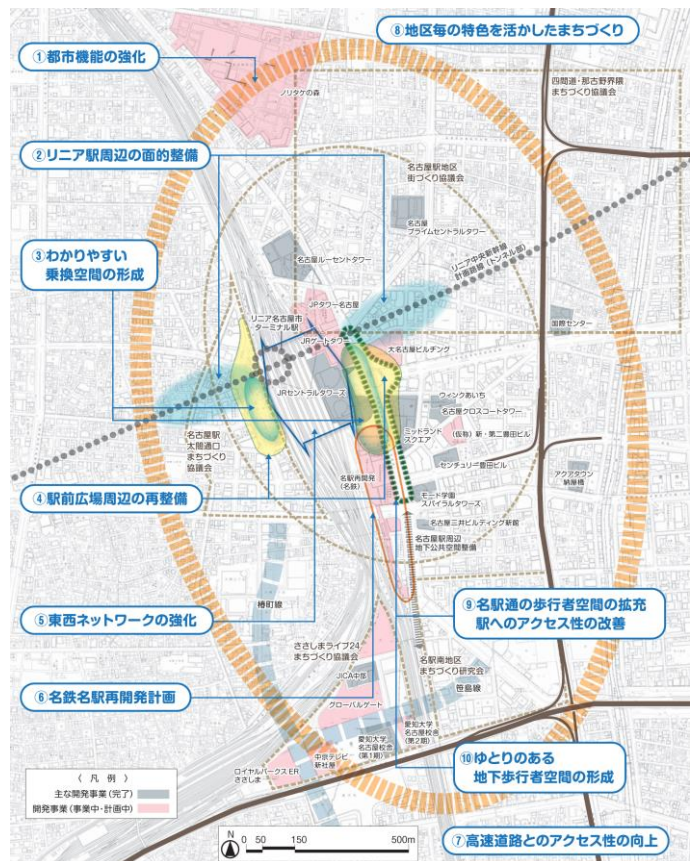
○構想の目的

- ・リニア開業後のまちを見据えた概ね 15 年後を目標年次とする。
- ・多様な主体がまちづくりを進めるための共通目標となる基本方針と具体的な取り組みを明らかにする。
- ・リニアが整備されることにより、特にまちづくりに必要とされることを中心に取りまとめる。

○目標とするまちの姿

世界に冠たるスーパーターミナル・ナゴヤ～国際レベルのターミナル駅を有する魅力と活力にあふれるまち～

- ・高いレベルの機能性を備えたまちづくりを着実に進めるとともに、広く叡智を集め、世界の人々が集まり、魅了し続けるまちを目指す。



■ まちづくりの基本方針

【基本方針 1】 国際的・広域的な役割を担う圏域の拠点・顔を目指す

- (1) 国際的・広域的なビジネス拠点・交流拠点を形成する
- (2) 玄関口にふさわしい風格とにぎわいを感じさせる顔づくりを進める
- (3) ビジネス拠点・交流拠点にふさわしい安全性を確保するとともに、環境負荷の少ないまちを形成する

【基本方針 2】 誰にも使いやすい国際レベルのターミナル駅をつくる

- (1) 初めての人や外国人にもわかりやすいターミナル駅を形成する
- (2) リニアの速達性を活かすなど交通機関相互の乗換利便性を向上する

【基本方針 3】 都心における多彩な魅力をもったまちをつくり、つないでいく

- (1) 城下町から超高層ビル群まで新旧織り交ぜた多様なまちの魅力を育て、活かす
- (2) 人が主役の歩いて楽しい空間を形成し、回遊性を高める

【基本方針 4】 リニア開業を見据え、行政と民間が一丸となって着実に構想を実現する

- (1) まちづくり構想を実現するため、行政がリーダーシップを発揮するとともに、行政と民間、民間相互など様々な主体が連携・協働してまちづくりを推進する

出典：名古屋市ホームページ (<http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/53-10-20-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>)

●これからの錦二丁目 まちづくり構想（2011-2030）手引き編

【平成 23 年4月策定（錦二丁目まちづくり連絡協議会（現錦二丁目まちづくり協議会））】

○まちづくり方針 ※ホームページ掲載原文のまま引用

元気経済の仕掛け >>>タウンマネジメントでまち経営

■分かち合いで見えてくる新しい経済

「まちはみんなのもの」という「共生」の発想をもてば、まち全体の価値が上がっていきましょう。
 全体を考慮した譲歩は大きな果実を期待できる投資である。
 トリエンナーレによる「アートとまちの融合」は感動や自由な発想をもたらしてくれました。その持続的発展や、映画館導入などの文化的要素は経済と人の両方を元気にするでしょう。

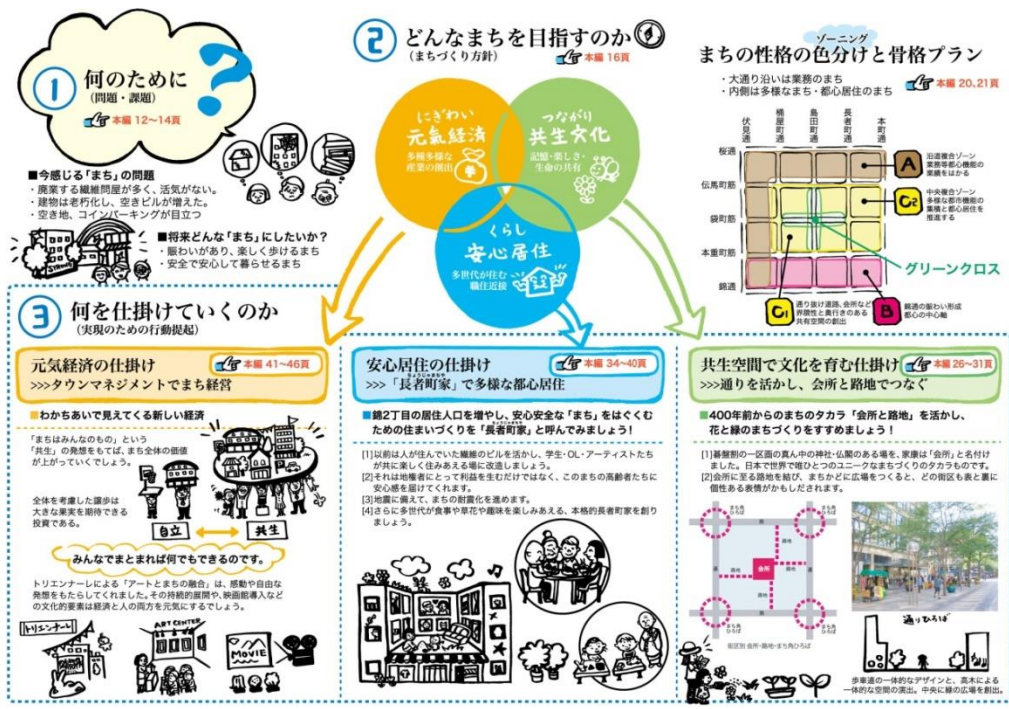
安心住居の仕掛け >>>「長者町家」で多様な都心居住

■錦2丁目の居住人口を増やし、安心安全な「まち」をはぐくむための住まいづくりを「長者町家」と呼んでみましょう！

- 1.以前は人が住んでいた繊維のビルを活かし、学生・OL・アーティストたちが共に楽しく住みあえる場に改造しましょう。
- 2.それは地権者にとって利益を生むだけでなく、このまちの高齢者たちに安心感を届けてくれます。
- 3.地震に備えて、まちの耐震化を進めます。
- 4.さらに多世代が食事や草花や趣味を楽しみあえる、本格的長者町家を創りましょう。

共生空間で文化を育む仕掛け >>>通りを活かし、会所と路地でつなぐ

- 400年前からのまちのタカラ「会所と路地」を活かし、花と緑のまちづくりをすすめましょう！
- 1.碁盤割の一区画の真ん中の神社・仏閣のある場を、家康は「会所」と名付けました。日本で世界で唯ひとつのユニークなまちづくりのタカラものです。
 - 2.会所に至る路地を結び、まちかどに広場をつくると、どの街区も表と裏に個性ある表情がかもしだされます。



出典：錦二丁目まちづくり協議会ホームページ（錦二丁目まちづくり協議会）

3)活動報告

■第1回「伏見地区まちづくりビジョン研究会」(出席者:17名)

日時 平成28年7月12日(火) 14:00~15:30

会場 名古屋商工会議所 3階 第3会議室

- 内容
1. 主催者挨拶
名古屋商工会議所 理事・企画振興部長 田中 豊
 2. 座長挨拶
名古屋鉄道株式会社 経営戦略部 事業プロジェクト担当部長 鈴木 武 氏
 3. 委員自己紹介
 4. 説明「伏見地区まちづくりビジョン研究会について」
 5. 説明「伏見地区の特色について」
 6. 意見交換

■第2回「伏見地区まちづくりビジョン研究会」(出席者:16名)

日時 平成28年9月27日(火) 10:00~12:00

会場 名古屋商工会議所 3階 第3会議室

- 内容
1. 伏見地区のまちづくりにおける最新情報について
 2. 協議事項
提言「伏見地区まちづくりビジョン」(素案)について

■第3回「伏見地区まちづくりビジョン研究会」(出席者:16名)

日時 平成28年11月7日(月) 14:00~16:00

会場 名古屋商工会議所 3階 第3会議室

- 内容
- 協議事項
提言「伏見地区まちづくりビジョン」(案)について

■第4回「伏見地区まちづくりビジョン研究会」(出席者:19名)

日時 平成29年1月18日(水) 15:00~17:00

会場 名古屋商工会議所 3階 第3会議室

- 内容
- 協議事項
提言「伏見地区まちづくりビジョン」(案)について

■「地域開発委員会」(出席者:30名)

日時 平成29年3月1日(水) 10:00~11:00

会場 名古屋商工会議所 4階 特別会議室

- 内容
1. 話題提供
名古屋市における民間再開発の動向について
 2. 協議事項
(1) 提言「伏見地区まちづくりビジョン」(案)について
(2) 今後の活動について

「伏見地区まちづくりビジョン研究会」委員名簿

平成29年2月28日現在

【順不同・敬称略】

	所属	役職名	氏名
座長	名古屋鉄道株式会社	経営戦略部 事業プロジェクト担当部長	鈴木 武
委員	岡谷鋼機株式会社	企画本部 企画部長	小池 守
委員	株式会社JTB中部	法人営業名古屋支店 営業三課長	竹田 隆一
委員	株式会社竹中工務店名古屋支店	営業部 開発営業1グループ 副部長	河崎 泰了
委員	中部電力株式会社	販売カンパニー 法人営業部 ソリューショングループ長 部長	柴山 直幹
委員	東邦ガス株式会社	調査部長	村田 純一
委員	東陽倉庫株式会社	執行役員不動産部長	若山 英二
委員	独立行政法人都市再生機構中部支社	都市再生業務部長	蔦谷 英司
委員	株式会社名古屋観光ホテル	取締役営業統括部長	伊藤 清勝
委員	名古屋市商店街振興組合連合会	専務理事・事務局長	社本 謙
委員	一般財団法人日本不動産研究所東海支社	副支社長	恒川 雅至
委員	株式会社御園座	取締役副社長	中野 智之
委員	三井物産株式会社中部支社	業務部 事業推進室 主管	小田 俊之
委員	三菱地所株式会社名古屋支店	次長	雛元 昌一郎
委員	株式会社三菱東京UFJ銀行	経営企画部 上席調査役	武田 裕志
オブザーバー	名古屋市住宅都市局	参事（栄開発等）	高岡 豊彦
オブザーバー	名古屋市住宅都市局	リニア関連都心開発部 都心まちづくり課長	鈴木 英文
オブザーバー	名古屋市交通局	営業本部 企画財務部 主幹	川原田 真弓
オブザーバー	名古屋都市再開発研究会	幹事	尾関 利勝
事務局	名古屋商工会議所	理事・企画振興部長	田中 豊
事務局	名古屋商工会議所	企画振興部 地域・都市整備グループ長	大竹 正芳
事務局	名古屋商工会議所	企画振興部 地域・都市整備グループ 係長	安江 濯

名古屋商工会議所「地域開発委員会」委員名簿

平成 29 年 2 月 28 日現在

【順不同・敬称略】

	会社名	役職名	氏名
委員長	名鉄産業株式会社	代表取締役会長	安藤 隆司
副委員長	日本車輛製造株式会社	取締役社長	五十嵐 一弘
副委員長	中部電力株式会社	代表取締役社長	勝野 哲
副委員長	中部国際空港株式会社	代表取締役社長	友添 雅直
副委員長	興和株式会社	代表取締役社長	三輪 芳弘
副委員長	東和不動産株式会社	取締役社長	山口 千秋
副委員長	西日本電信電話株式会社名古屋支店	取締役東海事業本部長 名古屋支店長兼務	山本 尚樹
	株式会社秋田屋	代表取締役	浅野 純史
	株式会社アラクス	代表取締役社長	荒川 慎太郎
	株式会社フジキカイ	代表取締役社長	生田 涌希
	名港海運株式会社	専務取締役	伊藤 一功
	N D S 株式会社	代表取締役社長	伊藤 卓志
	猪村工業株式会社	代表取締役社長	猪村 淡
	株式会社瑞穂機械製作所	代表取締役社長	岩田 崇祺
	株式会社ジェイアール東海ホテルズ	代表取締役社長	印南 隆夫
	株式会社浦野設計	代表取締役社長	浦野 廣高
	中部日本放送株式会社	代表取締役会長	大石 幼一
	御幸毛織株式会社	取締役社長	奥村 潔
	鹿島建設株式会社中部支店	執行役員支店長	片山 豊
	中央電気工事株式会社	代表取締役社長	加藤 大策
	株式会社デンソー	取締役会長	加藤 宣明
	伊藤忠商事株式会社中部支社	執行役員支社長	川崑 宏昭
	三井不動産株式会社中部支店	支店長	河津 弘幸
	愛知日野自動車株式会社	取締役相談役	川村 敏雄
	株式会社トーエネック	代表取締役社長	久米 雄二
	近鉄グループホールディングス株式会社	取締役専務執行役員	倉橋 孝壽
	株式会社名鉄百貨店	取締役社長	黒野 友之
	株式会社名古屋証券取引所	代表取締役会長	畔柳 昇
	株式会社愛知銀行	取締役会長	小出 眞市

会社名	役職名	氏名
株式会社ナゴヤキャッスル	代表取締役社長	越川 健一郎
リンナイ株式会社	常務執行役員 管理本部長兼経理部長	瀬瀬 泰生
伊勢湾海運株式会社	代表取締役社長	後藤 正三
三菱商事株式会社中部支社	執行役員支社長	小柳 健一
大成建設株式会社名古屋支店	常務執行役員支店長	近藤 昭二
東陽倉庫株式会社	代表取締役会長	白石 好孝
株式会社日本政策投資銀行東海支店	支店長	杉本 健
名古屋鉄道株式会社	経営戦略部 事業プロジェクト担当部長	鈴木 武
愛知時計電機株式会社	取締役会長	鈴木 登
ダイダン株式会社名古屋支社	取締役執行役員支社長	立石 知己
日本航空株式会社	中部地区支配人	棚橋 伸
株式会社NTTドコモ東海支社	執行役員支社長	谷 誠
全日本空輸株式会社中部支社	執行役員支社長	丹治 康夫
名古屋ダイハツ株式会社	代表取締役会長	坪内 協致
徳倉建設株式会社	代表取締役社長	徳倉 正晴
東邦液化ガス株式会社	相談役	富成 義郎
日本通運株式会社名古屋支店	執行役員支店長	中村 栄一
株式会社ジェイアール東海高島屋	代表取締役会長	中山 理
株式会社竹中工務店	常務執行役員	西山 正直
名工建設株式会社	相談役	野田 豊範
一般社団法人名古屋銀行協会	専務理事	野原 強
ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社	執行役員中部支社長	藤田 将也
矢作建設工業株式会社	代表取締役会長	藤本 和久
名鉄不動産株式会社	代表取締役社長	前田 由幸
中日本高速道路株式会社	代表取締役社長	宮池 克人
東邦ガス株式会社	専務執行役員	宮崎 修二
株式会社大須ういろ	代表取締役会長	村山 博之
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	常務執行役員 コンサルティング・国際事業本部兼政策研究事業本部名古屋本部長	森口 茂樹
株式会社パルコ名古屋店	執行役店長	山木 知行
八木兵株式会社	代表取締役	山口 兼市
明治安田生命保険相互会社名古屋本部	執行役員本部長	山口 秀樹
菊水化学工業株式会社	代表取締役社長	山口 均



名古屋商工会議所（企画振興部 地域・都市整備グループ）

〒460-8422 名古屋市中区栄 2-10-19

TEL : 052-223-5735 FAX : 052-231-6767